

### 第3章 消防用設備等の技術基準

#### 凡 例

無印：法令基準（法令解釈等）、令第32条適用要件

★ : 法令基準+指導基準

◇ : 指導基準

## 第1節 総論

### 1 消防用設備等（特殊消防用設備等）計画書

#### (1) 届出書の提出

建築物について、建基法第6条第1項若しくは第6条の2第1項の規定による確認の申請又は建基法第18条第2項若しくは同条第4項の規定による計画の通知をした者は、速やかに当該建築物に設置すべき消防用設備等（消火器、簡易消火用具、非常警報器具及び誘導標識を除く。）又は特殊消防用設備等の設置又は変更の計画書（以下この第1節において「設備計画書」という。）を2部提出すること。

なお、建築物の計画の変更に伴う消防用設備等又は特殊消防用設備等の変更の計画書については、計画の変更の内容が軽微なものであり、当該届出書によらずとも審査上支障がないと認められる場合は、届出を省略して差し支えないものとする。

#### (2) 添付図書等

設備計画書には、原則として次に掲げる図書を添付すること。ただし、消防機関が保有している図書により必要な事項が確認できる場合等、当該図書によらずとも審査上支障がないと認められる場合は、必要となる図書の添付を省略して差し支えないものとする。

- ア 付近見取図、配置図及び面積計算書
- イ 各階平面図
- ウ 立面図、断面図及び矩計図
- エ はり及び天井伏図
- オ 建具配置図及び建具表
- カ 室内仕上表
- キ 空調及び衛生設備図
- ク 消防用設備等又は特殊消防用設備等の計画図
- ケ 無窓階・普通階算定書
- コ 概要表（防火対象物及び各消防用設備等）

#### (3) 設備計画書の範囲

設備計画書は、建築確認申請等に係る建築物の全てに係るものの一括すること。◇

### 2 消防用設備等免除申請書

#### (1) 申請書の提出

令第32条又は条例第73条の規定の適用により、消防用設備等の設置の免除を受けようとする者は、消防用設備等免除申請書（以下この第1節において「免除申請書」という。）を2部提出すること。

#### (2) 添付図書等

免除申請書には、原則として次に掲げる図書を添付すること。ただし、消防機関が保有している図書等により免除に係る必要な事項が確認できる場合は、必要な図書の添付を省略して差し支えないものとする。

- ア 前1. (2)に準ずる図書
- イ その他必要な図書

### 3 工事整備対象設備等着工届出書

#### (1) 届出書の提出

令第7条に掲げる消防用設備等（消火器具、非常警報器具、避難ロープ、移動式の避難はしご及び誘導標識を除く。）又は特殊消防用設備等の工事をしようとするときは、その工事に着手しようとする日の10日前までに、工事整備対象設備等着工届出書（以下この第1節において「着工届出書」という。）を2部提出すること。◇

なお、次に掲げる消防用設備等に係る工事区分のうち、アからオまでに掲げる工事について、着工届出書を要するものであること。

- ア 新設

防火対象物（新築のものを含む。）に従前設けられていない消防用設備等を新たに設けることをいう。

イ 増設

防火対象物に設置されている消防用設備等について、その構成機器、装置等の一部を付加することをいう。

ウ 移設

防火対象物に設置されている消防用設備等について、その構成機器、装置等の全部又は一部の設置位置を変えることをいう。

エ 取替え

防火対象物に設置されている消防用設備等について、その構成機器、装置等の一部を既設のものと同等の種類、機能、性能等を有するものに交換することをいう。

オ 改造

防火対象物に設置されている消防用設備等について、その構成機器、装置等の一部を付加若しくは交換し、又は取り外して消防用設備等の構成、機能、性能等を変えることをいい、「取替え」に該当するものを除く。

カ 補修

防火対象物に設置されている消防用設備等について、変形、損傷、故障箇所などを元の状態又はこれと同等の構成、機能、性能等を有する状態に修復することをいう。

キ 撤去

防火対象物に設置されている消防用設備等について、その全部を当該防火対象物から取り外すことをいう。

(2) 着工届出書の省略

前(1). イからエまでに掲げる消防用設備等に係る工事のうち、別表第1に掲げる軽微な工事に該当するものにあっては、次により取り扱うことにより、着工届出書を省略できるものとする。ただし、別表第1に掲げる軽微な工事と軽微な工事に該当しない前(1). アからオまでの工事を同時に行う場合は、着工届出書を要することである。

ア 令第36条の2第1項に掲げる消防用設備等に係る工事については、着工届出書の有無にかかわらず、当該消防用設備等に係る甲種消防設備士が行うこと。

イ 甲種消防設備士は、軽微な工事を実施した場合においても、当該工事の内容を記録するとともに、消防用設備等試験結果報告書、当該消防用設備等に関する図書（平面図、配管及び配線の系統図）及び現場の状況を補足する写真、試験データ等を作成、整備し、防火対象物の関係者に提出すること。

ウ 防火対象物の関係者は、消防用設備等の修理、整備等の経過一覧表に所要の事項を確実に記録するとともに、規則第31条の6第3項に規定する維持台帳に所有の書類を添付して保存し、査察時等に提出できるようにしておくこと。

(3) 添付図書等

ア 着工届出書には、原則として次に掲げる図書を添付すること。ただし、消防機関が保有している図書により必要な事項が確認できる場合等、当該図書によらずとも審査上支障がないと認められる場合は、必要となる図書の添付を省略して差し支えないものとする。

(ア) 消防用設備等の着工届出書に添付する図書は、別表第2によること。◇

なお、概要表については、別記様式第1から別記様式第22までによるものとする。

(イ) 特殊消防用設備等の着工届出書に添付する図書は、規則第33条の18第2号によること。

イ 同一の防火対象物について同一時期に提出される複数の着工届出書の添付図書のうち、次に掲げるものについては、一の着工届出書に代表して添付することにより、個々の着工届出書への添付を省略して差し支えないものとする。

(ア) 付近見取図

(イ) 意匠図（建築平面図、立面図、断面図等）

(ウ) 関係設備共通の非常電源関係図書

(エ) 防火対象物の概要表

ウ 総合操作盤の設置に係る着工届出書には、消防用設備等ごとの表示項目及び警報項

目が記載された書類（表）を添付すること。◇

(4) 着工届出書の単位

着工届出書は、原則として、消火設備、警報設備、避難設備、消防用水又は消火活動上必要な施設ごとに一括して提出すること。◇

(5) 工事着手日

法第17条の14に規定する「工事を着手しようとする日」とは、別表第3によること。

なお、届出日までに確定していない添付図書は、届出後、追加又は差し替え等による対応で差し支えないものとする。

別表第1

## 軽微な工事の範囲

消防用設備等の種類	増設	移設	取替え
屋内消火栓設備 屋外消火栓設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消火栓箱           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 2基以下で既設と同種類のものに限る。</li> <li>→ 加圧送水装置等の性能(吐出量、揚程)、配管サイズ及び警戒範囲に影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消火栓箱           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 同一の警戒範囲内での移設</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●加圧送水装置（制御盤を含む。）を除く構成部品</li> </ul>
スプリンクラー設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッド           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下で、既設と同種類のもので、かつ、散水障害がない場合に限る。</li> <li>→ 加圧送水装置等の性能(吐出量、揚程)配管サイズに影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> <li>●補助散水栓箱           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 2個以下で既設と同種類のものに限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッド           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下で防護範囲が変わらない場合に限る。</li> </ul> </li> <li>●補助散水栓箱           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 同一警戒範囲内での移設</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●加圧送水装置（制御盤を含む。）、減圧弁、圧力調整弁、一斉開放弁を除く構成部品</li> </ul>
水噴霧消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッド           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> <li>→ 1の選択弁において5個以内</li> <li>→ 加圧送水装置等の性能(吐出量、揚程)配管サイズに影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッド           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 1の選択弁において2個以内</li> </ul> </li> <li>●手動起動装置           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 同一放射区画内で、かつ、操作性に影響のない場合に限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●加圧送水装置（制御盤を含む。）、減圧弁、圧力調整弁、一斉開放弁を除く構成部品</li> </ul>
泡消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッド           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> <li>→ 1の選択弁において5個以内</li> <li>→ 加圧送水装置等の性能(吐出量、揚程)配管サイズ、泡混合装置、泡消火剤貯蔵量等の能力に影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッド           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 1の選択弁において5個以下で警戒区域の変更のない範囲</li> </ul> </li> <li>●手動起動装置           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 同一放射区画内で、かつ、操作性に影響のない場合に限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●加圧送水装置（制御盤を含む。）、泡消火剤混合装置、減圧弁、圧力調整弁、一斉開放弁を除く構成部品</li> </ul>
不活性ガス消火設備 ハロゲン化物消火設備 粉末消火設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッド・配管（選択弁の二次側に限る。）           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> <li>→ 5個以下で薬剤量、放射濃度、配管のサイズ等に影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> <li>●ノズル           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> <li>→ 5個以下で薬剤量、放射濃度、配管のサイズ等に影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> <li>●移動式の消火設備           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> <li>→ 同一室内に限る。</li> </ul> </li> <li>●制御盤、操作盤等の電気機器、起動用ガス容器、操作管、手動起動装置、火災感知器、放出表示灯、スピーカー、ダンパー閉鎖装置、ダンパー復旧装置           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 同一室内で、かつ、電源容量に影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッド・配管（選択弁の二次側に限る。）           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下で放射区域の変更のない範囲</li> </ul> </li> <li>●ノズル           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下で放射区域の変更のない範囲</li> </ul> </li> <li>●移動式の消火設備           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 同一室内に限る。</li> </ul> </li> <li>●制御盤、操作盤等の電気機器、起動用ガス容器、操作管、手動起動装置、火災感知器、放出表示灯、スピーカー、ダンパー閉鎖装置、ダンパー復旧装置           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 同一室内で、かつ、電源容量に影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全ての構成部品           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 放射区画に変更のないものに限る。</li> </ul> </li> </ul>

消防用設備等の種類	増設	移設	取替え
自動火災報知設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 感知器           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> <li>→ 10個以下</li> </ul> </li> <li>● 発信機、ベル、表示灯           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> <li>→ 同一警戒区域内に限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 感知器           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 10個以下で警戒区域の変更がない場合に限る。</li> </ul> </li> <li>● 発信機、ベル、表示灯           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 同一警戒区域内に限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 感知器           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 10個以下</li> </ul> </li> <li>● 受信機、中継器           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 7回線を超えるものを除く。</li> </ul> </li> <li>● 発信機、ベル、表示灯</li> </ul>
ガス漏れ火災警報設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 検知器           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> <li>→ 5個以下で警戒区域の変更がない場合に限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 検知器           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下で警戒区域の変更がない場合に限る。</li> </ul> </li> </ul>	受信機を除く。
非常警報設備（非常ベル、自動式サイレン）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 起動装置、ベル、表示灯           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> <li>→ 5個以下で警戒区域の変更がない場合に限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 起動装置、ベル、表示灯           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下で警戒区域の変更がない場合に限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 起動装置、ベル、表示灯           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下</li> </ul> </li> </ul>
非常警報設備（放送設備）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スピーカー           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> <li>→ 5個以下で警戒区域の変更がない場合に限る。</li> <li>→ 増幅器の容量に影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スピーカー           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下で警戒区域の変更がない場合に限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スピーカー           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下</li> </ul> </li> </ul>
避難器具	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本体・取付金具           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 同一階に限る。</li> <li>→ 設置時と同じ施工方法に限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●標識</li> <li>●本体・取付金具           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 設置時と同じ施工方法に限る。</li> </ul> </li> </ul>
誘導灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本体           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本体           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 5個以下</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本体           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> </ul> </li> </ul>
漏電火災警報器	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本体・変流器           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本体・変流器           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 同一警戒電路内に限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本体・変流器           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 既設と同種類のもの</li> </ul> </li> </ul>
非常コンセント設備	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全ての構成部品</li> </ul>
連結散水設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッド           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 一の放水区域において5個以下で、送水区域に変更がない範囲の場合で、既設と同種類のもので、かつ、散水障害がない場合に限る。</li> <li>→ 消防ポンプ等の性能（吐出量、揚程）、配管サイズに影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヘッド           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 一の放水区域において5個以下で、送水区域に変更がない範囲の場合に限る。</li> <li>→ 消防ポンプ等の性能（吐出量、揚程）、配管サイズに影響を及ぼさないものに限る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●加圧送水装置（制御盤を含む。）、減圧弁、圧力調整弁、一斉開放弁を除く構成部品</li> </ul>
連結送水管	該当なし	該当なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>●加圧送水装置（制御盤を含む。）、減圧弁、圧力調整弁を除く構成部品</li> </ul>

備考1 各設備の施工基準については、第3章「消防用設備等の技術基準」によること。

備考2 消防機関へ通報する火災報知設備（火災通報装置）、消防用水及び表中にはない消火活動上必要な施設にあっては、これによらないものとする。

備考3 表中の各区分（「増設」、「移設」及び「取替え」をいう。）の工事を同時に実施する場合については、それぞれの工事が軽微な工事の範囲内であれば、一の軽微な工事として取り扱うこと。

備考4 「改造」に該当しない「補修」とは、変形、損傷、故障箇所などを元の状態又はこれと同等の構成、機能、性能等を有する状態に修復することをいい、「整備」に該当するものであること。

（例1）屋内消火栓設備等の配管、弁類及び計器類の取替え。ただし、経路変更を伴う配管取替えは除く。  
（例2）落雷や水没等による、自動火災報知設備等の電気基盤の取替え。

備考5 自動火災報知設備の感知器について、既設と別の種類の感知器に取替える場合、新たに設計を要しないものにあっては、「改造」ではなく、「取替え」として取り扱うこと。

備考6 令第29条の4に規定される必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等における、本表の準用にあっては、管轄の消防機関に確認すること。

備考7 軽微な工事に関する運用基準については、「消防用設備等に係る執務資料の送付について」（平成10年5月1日付け消防予第67号）によること。

別表第2

区分		備考												
概要表	計算書	付近見取図及び配管図	平面図	立面図	断面図及び配管図	はり及び天井計画図	字説及び断面計画図	配管系統図及び配管図	配管系統図及び配管図	使用機器図	設計図及び構造計算書	詳細図		
屋内消火栓	スプリンクラー	水噴霧消火栓	粉未消火栓	ハログン化物消火栓	不活性ガス消火栓	自動火災報知設備	漏電火災警報装置	火災通報装置	非常警報装置	総合操作盤	誘導器具	消防用器具	非常通信辅助設備	バッケージ型消防設備
※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
分表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※	※
概要表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
計算書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
付近見取図及び配管図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平面図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
立面図														
断面図及び配管図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
はり及び天井計画図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
字説及び断面計画図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
配管系統図及び配管図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
配管系統図及び配管図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
使用機器図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
設計図及び構造計算書														
詳細図														
要摘	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
要摘	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
要摘	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
要摘	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
要摘	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
要摘	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

1 設備器具には、設備部分の詳細図を添付すること。  
 2 消防用水中には、採水口を設置する部の詳細図を添付すること。  
 3 付近消火栓、配管図に設備位置を記入すること。  
 4 通常消防栓の逃水口、放水口及び非常コマンセントには、平面図に設備位置の地図面又は床面からの高さを記入すること。  
 5 屋外消火栓の計画図には、ヘッド各部等の詳細図を添付すること。  
 6 防災センター等に操作盤等が設置される場合、当該防災センター等の構造図(仰視図、建具詳細等)及び室内仕上表を添付すること。

別表第3

消防用設備等の種類	基準日
消火設備	各設備の配管（各種ヘッド、ノズル等を直接取り付ける配管を除く。）の接続工事又は加圧送水装置等の設置工事を行おうとする日
警報設備	各設備ごとに次に掲げる機器の設置工事を行おうとする日
自動火災報知設備	受信機（当該工事に受信機を含まないときは、感知器）
ガス漏れ火災警報設備	受信機（当該工事に受信機を含まないときは、検知器）
漏電火災警報器 ◇	受信機
火災通報装置 ★	火災通報装置本体、構成部品（蓄積音声情報を含む。）及び構成機器の設置及び変更工事並びに連動起動への変更及び連動停止の接続工事
非常警報設備 ◇	起動装置、增幅器、操作部及び遠隔操作器（当該工事に起動装置、增幅器、操作部及び遠隔操作器を含まないときは、スピーカー）
避難設備	
避難器具	取付金具の設置工事を行おうとする日
誘導灯 ◇	誘導灯の取付工事を行おうとする日
消防活動上必要な施設	各設備ごとに次に掲げる機器の設置工事を行おうとする日
連結散水設備及び連結送水管 ◇	各設備の配管（ヘッド送水口等を直接取り付ける配管を除く。）
非常コンセント設備及び無線通信補助設備 ◇	使用機器
消防用水 ◇	防火水槽は、当該水槽のコンクリート打ちを行おうとする日 流水を利用するときは、その配管等の敷設工事を行おうとする日
総合操作盤 ◇	構成機器本体の設置工事を行おうとする日
必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等	
パッケージ型消火設備	格納箱の取付工事を行おうとする日
パッケージ型自動消火設備	放出導管（放出口を直接取り付ける放出導管を除く。）の接続工事を行おうとする日
共同住宅用スプリンクラー設備	各設備の配管（各種ヘッド、ノズル等を直接取り付ける配管を除く。）の接続工事又は加圧送水装置等の設置工事を行おうとする日
特定駐車場用泡消火設備	
共同住宅用自動火災報知設備	
住戸用自動火災報知設備	
特定小規模施設用自動火災報知設備	
複合型居住施設用自動火災報知設備	警報設備の受信機の設置工事を行おうとする日 (受信機の設置工事を伴わない場合は、感知器の設置を行おうとする日)
特殊消防用設備等 ◇	評価を受けた後に構成機器本体の設置工事を行おうとする日

#### 4 届出書及び概要表の記載要領◇

様式第18号の2（第30条の2関係）

#### 消防用設備等（特殊消防用設備等）計画書

① 年 月 日

② 様

届出者住所	③
氏名	③
電話	③
代理人住所	③
氏名	③
電話	③

所在地	④			
名称	⑤		主用途 ⑥	政令区分 ⑦
申 請	建築面積 ⑧ m <sup>2</sup>	延べ面積 ⑧ m <sup>2</sup>	階 数 ⑧/B	敷地面積 ⑪ m <sup>2</sup> 工事種別 ⑫
既 存	⑨ m <sup>2</sup>	⑨ m <sup>2</sup>	⑨/B	構 造 ⑬ 収容人員 ⑭ 名 ( ) 世帯
計	⑩ m <sup>2</sup>	⑩ m <sup>2</sup>		

#### 消防用設備又は特殊消防用設備等の概要

消火設備	警報設備	避難設備	その他	特殊消防用設備等
⑮	⑮	⑮	⑮	⑮

#### 棟別の概要

△	建築面積	延べ面積	階 数	用 途	消防用設備等又は特殊消防用設備等
1	⑯ m <sup>2</sup>	⑯ m <sup>2</sup>	⑯/B	⑯	⑯
2	⑯ m <sup>2</sup>	⑯ m <sup>2</sup>	⑯/B	⑯	⑯
3	⑯ m <sup>2</sup>	⑯ m <sup>2</sup>	⑯/B	⑯	⑯

※受付欄	※経過及び備考欄

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

審査済欄

2 次の図書を添付すること。

- (1) 概要表 (2) 付近見取図、配置図、面積計算書
- (3) 各階平面図 (4) 立面図、断面図、矩計図
- (5) はり及び天井伏図 (6) 建具配置図及び建具表
- (7) 室内仕上表 (8) 空調及び衛生設備図
- (9) 消防用設備等の計画図 (10) 無窓階算定書

- ①：消防機関へ提出する日を記入する。
- ②：「尾道市消防局長」又は当該防火対象物の所在地を管轄する「管轄消防署長」を記入する。
- ③：建築主及び代理者の住所、氏名、電話を記入する。
- ④：当該防火対象物の所在地を記入する。
- ⑤：当該防火対象物の名称を記入する。
- ⑥：当該防火対象物の主たる用途を記入する。（例：飲食店）
- ⑦：当該防火対象物の令別表第1の用途を記入する。（例：飲食店の場合は、(3)項口）
- ⑧：届出に係る防火対象物の棟の建築面積、延べ面積及び階数を記入する（届出に係る棟が複数ある場合は、代表棟を記入する。）。
- ⑨：⑧と同一棟となる既存棟がある場合は、既存棟の建築面積、延べ面積及び階数を記入する。
- ⑩：⑧及び⑨の合計を記入する。
- ⑪：敷地面積を記入する。
- ⑫：新築、増築、改築、模様替え又はその他を記入する。
- ⑬：建築物の構造を記入する。（例：鉄骨造（準耐火建築物ロ-2））
- ⑭：規則第1条の3の規定により算出した収容人員を記入する。
- ⑮：設置する消防用設備等（特殊消防用設備等）の種類をそれぞれの区分欄へ記入する。  
なお、既存の設備については、（ ）書きとする。
- ⑯：届出に係る棟が複数ある場合、代表棟以外の棟の建築面積、延べ面積、階数、用途及び設置する消防用設備等（特殊消防用設備等）を棟ごとに記入する。

## 消防用設備等免除申請書

(1) 年 月 日

尾道市消防局長様

申請者住所 \_\_\_\_\_ (2)

氏名 \_\_\_\_\_ (2)

次の防火対象物は以下の構造等であるため、消防法施行令第32条及び尾道市火災予防条例の規定による特例の適用をお願いします。

所在地	(3)			電話	(4)
名称	(5)			用途	(6) 政令区分 (7)
建築面積	申 請 (8) m <sup>2</sup>	延べ面積 (8) m <sup>2</sup>	階 数 (8)	敷地面積 (11) m <sup>2</sup>	工事種別 (12)
既存	(9) m <sup>2</sup>	(9) m <sup>2</sup>	(9)	構 造 (13)	収容人員 (14) 名 ( ) 世帯
計	(10) m <sup>2</sup>	(10) m <sup>2</sup>			

## 免除申請消防用設備等の種類

消 火 設 備 (	(15)
警 報 設 備 (	(15)
避 難 設 備 (	(15)
そ の 他 (	(15)

## 免除要件

(16)

受付欄	経過欄
-----	-----

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 次の図書を必要により添付すること。

- (1) 附近見取図、配置図、面積計算書 (2) 各階平面図 (3) 立面図、断面図、矩計図
- (4) はり及び天井伏図 (5) 建具配置図及び建具表 (6) 室内仕上表 (7) 空調及び衛生設備図
- (8) その他必要な図書

- ①：消防機関へ提出する日を記入する。
- ②：建築主の住所及び氏名を記入する。
- ③：当該防火対象物の所在地を記入する。
- ④：当該防火対象物の電話番号を記入する。
- ⑤：当該防火対象物の名称を記入する。
- ⑥：当該防火対象物の主たる用途を記入する。（例：飲食店）
- ⑦：当該防火対象物の令別表第1の用途を記入する。（例：飲食店の場合は、(3)項口）
- ⑧：申請する棟の建築面積、延べ面積及び階数を記入する。
- ⑨：⑧と同一棟となる既存棟がある場合は、既存棟の建築面積、延べ面積及び階数を記入する。
- ⑩：⑧及び⑨の合計を記入する。
- ⑪：敷地面積を記入する。
- ⑫：新築、増築、改築、模様替え又はその他を記入する。
- ⑬：建築物の構造を記入する。（例：鉄骨造（準耐火建築物ロ-2））
- ⑭：規則第1条の3の規定により算出した収容人員を記入する。
- ⑮：申請する消防用設備等（特殊消防用設備等）の種類をそれぞれの区分欄へ記入する。
- ⑯：免除申請要件を明確に記入する。

例1：屋内消火栓設備

P H階について、屋内消火栓設備の設置免除をお願いします。

例2：スプリンクラー設備

1 m<sup>2</sup>未満で寝具類以外の物品を収納する部分のヘッドの設置免除をお願いします。

別記様式 1

## 防火対象物 製造所等 } の概要表

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 消防用設備等の設置に係る階について、各階ごとに記入すること。

- ①：当該防火対象物の名称を記入する。
- ②：当該防火対象物の所在地を記入する。
- ③：当該防火対象物の主たる用途を記入する。
- ④：当該防火対象物の階数を記入する。
- ⑤：当該防火対象物の主要構造部に○印で記ついて、該当するものを□で囲む。
- ⑥：当該防火対象物の延べ面積を記入する。
- ⑦：階数を記入する。（下層階から記入する。）
- ⑧：階ごとの床面積を記入する。
- ⑨：原則、用途を記入する。（例：飲食店）
- ⑩：構造を階ごとに記入する。（例：鉄骨造）
- ⑪：天井の内装仕上げ材を階ごとに記入する。（不燃、準不燃、難燃又はその他）
  - 例1：不燃材料のみで仕上げている場合は、「不燃」と記入する。
  - 例2：不燃材料と準不燃材料が混在している場合は、「準不燃以上」と記入する。
- ⑫：壁の内装仕上げ材を階ごとに記入する。（記入要領は、⑪同様）
  - ※床面から1.2m以下も含む。
- ⑬：特記事項を階ごとに記入する。（例：無窓階の場合は、無窓階と記入する。）
- ⑭：消防用設備等の設置についての取扱い（特定共同住宅、令第8条による区画、規則第13条による区画等）等について記入する。

別記様式第2

屋内消火栓設備・屋外消火栓設備  
水噴霧消火設備・泡消火設備 の概要表

①	水 源	専用・兼用	種 別	地下ピット・床置き・その他 ( )	有効水量 (当該設備用)	m <sup>3</sup>
② 加压送水装置	ポンプ方式	ポンプ、電動機	専用・兼用	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		
			電圧 V	φ × L/min × m × kw		
	ユニット型		呼 水 装 置	有 ・ 無	有効容量 L	減水警報の表示場所
			起動用圧力タンク	有 ・ 無	容 量 L	ポンプ設置場所
	高架水槽方式		有効落差 m	圧力水槽方式	加压圧力 MPa	内容積 m <sup>3</sup>
③	屋内消火栓	1号 個	2号 個	易操作性 1号 個	合 計	個
	屋外消火栓	個	ホース 長さ m	本 表示灯	専用 ・ 兼用	
	噴霧ヘッド	標準放射量 L/min	標準放射圧力 MPa	放射角度 °		
④ 泡放出口	フォームヘッド 個 ・ フォームウォータースプリンクラーヘッド					個
	高発泡用泡放出口 個 ・ 泡ノズル 個 ・ その他 ( )					個
	泡消火設備の方式	固定式 (全域・局所) ・ 移動式	高発泡・低発泡	一斉開放弁	A	個
⑤ 泡消火薬剤	種別	たん白泡・合成界面活性剤・水成膜泡	貯蔵量 L	希釈容量濃度 %		
	混合方式	差圧混合方式 ・ 管路混合方式 ・ 圧入混合方式 ・ ポンプ混合方式 ・ その他 ( )				
⑥ 放水(出・射)区域	区域数	最大 放水(出・射)面積 m <sup>2</sup>	放水(出・射)量 L/min	放出体積 m <sup>3</sup>		
	区域	最小 放水(出・射)面積 m <sup>2</sup>	放水(出・射)量 L/min	放出体積 m <sup>3</sup>		
⑦ 起動装置	ポンプ起動方式	自火報発信機・専用スイッチ・起動用水圧開閉装置・流水検知装置・その他				
	起動感知方式	スプリンクラーヘッド ・ 感知器 ・ その他 ( )		手動式開放弁		
	自動警報装置	流水検知装置 A 個	圧力検知装置 個	その他		
⑧ 配管	立上がり管口径 A	材質	専用・兼用 ( )		設備	
	止水弁	逆止弁	その他 ( )			
⑨ ブリッジポンプ	ポンプ、電動機	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		補助水槽		
		φ × L/min × m × kw		m <sup>3</sup>		
		φ × L/min × m × kw		m <sup>3</sup>		
⑩ 電源	常用電源	単相 ・ 三相 AC V 電灯回路 ・ 動力回路				
		DC V AH 充電方式 トリクル ・ 浮動	使用別	専用・共用		
	非常電源	自家発電設備 単相 ・ 三相 AC ・ DC V kVA	使用別	専用・共用		
	蓄電池設備	DC V AH 充電方式 トリクル ・ 浮動	使用別	専用・共用		
	非常電源専用受電設備	単相 ・ 三相 AC V				
⑪ 配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他 ( )				
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他 ( )				
	警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他 ( )				
	その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他 ( )				
⑫ その他						

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

## ①水源について

- ・「専用」又は他の消火設備等との「兼用」について、該当する方を□で囲む。
- ・「種別」について、該当するものを□で囲む。
- ・「有効水量」を記入する。

なお、水源が兼用される場合は、屋内消火栓設備に使用可能な「有効水量」を記入する。

## ②加圧送水装置について

- ・ポンプ、電動機：「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、その「仕様」を記入する。
- ・呼水装置：①「有無」について、該当する方を□で囲み、呼水装置が設置される場合は、「有効容量」を記入する。  
②減水警報が表示される「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・ポンプ設置場所：「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・高架水槽方式：「有効落差」を記入する。
- ・圧力水槽：「圧力計の指示値」及び「内容積」を記入する。

## ③屋内消火栓について

- ・1号消火栓、2号消火栓及び易操作性1号消火栓ごとの「設置個数」及びその「合計設置個数」を記入する。  
なお、広範囲型2号消火栓を設ける場合は、2号の欄に記入すること。（例：2号（広範囲）10個）
- ・消火栓箱に収納する1本当たりのホースの「長さ」及び「設置本数」を記入する。
- ・消火栓箱の上部に設ける表示灯の「専用」又は他の消火設備との表示灯の「兼用」について、該当する方を□で囲む。

## ④起動装置について

- ・ポンプの「起動方式」で、該当するものを□で囲む。

## ⑤配管について

- ・立上り管の「口径」並びに配管及びバルブ類の「材質」（JIS番号（合成樹脂管の場合は認定番号））を記入する。また、配管の「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、兼用する場合は、兼用する消火設備を（）内に記入する。

## ⑥ブースターポンプについて

- ・ブースターポンプを設けた場合は、その「仕様」を記入する。

## ⑦電源について

### 【常用電源】

- ・AC・DCの区分により、該当するものを選択及び記入する。  
ACの場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。  
DCの場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

### 【非常電源】

- ・非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
自家発電設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「使用別」について、該当するものを□で囲む。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

非常電源専用受電設備の場合は、「電圧」を記入する。

## ⑧配線について

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

## ⑨その他について

- ・耐火電線又は耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては、工法名及びその他の特記事項を記入する。

別記様式第2

屋内消火栓設備・屋外消火栓設備)  
水噴霧消火設備・泡消火設備 の概要表

①	水 源	専用・兼用	種 別	地下ピット・床置き・その他( )	有効水量(当該設備用)	m <sup>3</sup>
	加圧送水装置	ポンプ方式 ユニット型	ポンプ、電動機	専用・兼用 電圧 V	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力 φ × L/min × m × kw	
②			呼 水 装 置	有・無	有効容量 L	減水警報の表示場所
		起動用圧力タンク	有・無	容 量 L	ポンプ設置場所	
	高架水槽方式	有効落差 m	圧力水槽方式	加圧圧力	MPa	内容積 m <sup>3</sup>
③	屋内消火栓	1号 個	2号 個	易操作性 1号 個	合 計 個	
③	屋外消火栓	個	ホース	長さ m 本	表示灯	専用・兼用
	噴霧ヘッド	標準放射量 L/min	標準放射圧力 MPa	放射角度 °		
	泡放出口	フォームヘッド	個	フォームウォータースプリンクラーヘッド	個	
		高発泡用泡放出口	個	泡ノズル 個	その他( )	個
	泡消火設備の方式	固定式(全域・局所)	・ 移動式	高発泡・低発泡	一斉開放弁	A 個
	泡消火	種別	たん白泡・合成界面活性剤・水成膜泡	貯蔵量 L	希釀容量濃度 %	
	薬 剤	混合方式	差圧混合方式・管路混合方式・圧入混合方式	ポンプ混合方式	その他( )	
	放水(出・射)区域	区域数	最大 放水(出・射)面積 m <sup>2</sup>	放水(出・射)量 L/min	放出体積 m <sup>3</sup>	
			最小 放水(出・射)面積 m <sup>2</sup>	放水(出・射)量 L/min	放出体積 m <sup>3</sup>	
④	起動装置	ポンプ起動方式	自火報発信機・専用スイッチ・起動用水圧開閉装置・流水検知装置・その他			
		起動感知方式	スプリンクラーヘッド・感知器・その他( )		手動式開放弁	
	自動警報装置	流水検知装置 A 個	・ 圧力検知装置 個	・ その他		
⑤	配管	立上がり管口径 A	材質	専用・兼用( )	設備	
		止水弁	逆止弁	その他( )		
⑥	ポンプ、電動機 スポーツダンパー	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力 φ × L/min × m × kw		補助水槽		
					m <sup>3</sup>	
					m <sup>3</sup>	
	電源	常用電源	単相・三相 AC V 電灯回路・動力回路			
			DC V AH 充電方式 トリクル・浮動 使用別 専用・共用			
⑦		自家発電設備	単相・三相 AC・DC V kVA	使用別	専用・共用	
		非常電源	蓄電池設備 DC V AH 充電方式 トリクル・浮動 使用別 専用・共用			
		非常電源専用受電設備	単相・三相 AC V			
⑧	配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )			
		非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他( )			
		警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他( )			
		その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )			
⑨	その他					

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

#### ①水源について

- ・「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲む。
- ・「種別」について、該当するものを□で囲む。
- ・「有効水量」を記入する。

なお、水源が兼用される場合は、屋外消火栓設備に使用可能な「有効水量」を記入する。

#### ②加圧送水装置について

- ・ポンプ、電動機：「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、その「仕様」を記入する。
- ・呼水装置：①「有無」について、該当する方を□で囲み、呼水装置が設置される場合は、「有効容量」を記入する。  
②減水警報が表示される「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・ポンプ設置場所：「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・高架水槽方式：「有効落差」を記入する。
- ・圧力水槽：「圧力計の指示値」及び「内容積」を記入する。

#### ③屋外消火栓について

- ・屋外消火栓設備の「設置個数」を記入する。
- ・消火栓箱に収納する1本当たりのホースの「長さ」及び「設置本数」を記入する。
- ・消火栓箱の上部に設ける表示灯の「専用」又は他の消火設備との表示灯の「兼用」について、該当する方を□で囲む。

#### ④起動装置について

- ・ポンプの「起動方式」で、該当するものを□で囲む。

#### ⑤配管について

- ・立上り管の「口径」並びに配管及びバルブ類の「材質」（JIS番号（合成樹脂管の場合は認定番号））を記入する。また、配管の「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、兼用する場合は、兼用する消火設備を（）内に記入する。

#### ⑥ブースターポンプについて

- ・ブースターポンプを設けた場合は、その「仕様」を記入する。

#### ⑦電源について

##### 【常用電源】

- ・AC・DCの区分により、該当するものを選択及び記入する。  
ACの場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。  
DCの場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

##### 【非常電源】

- ・非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
自家発電設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「使用別」について、該当するものを□で囲む。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

非常電源専用受電設備の場合は、「電圧」を記入する。

#### ⑧配線について

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

#### ⑨その他について

- ・耐火電線又は耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては、工法名及びその他の特記事項を記入する。

別記様式第2

屋内消火栓設備・屋外消火栓設備  
水噴霧消火設備・泡消火設備 の概要表

①	水 源	専用・兼用	種 別	地下ピット・床置き・その他( )	有効水量(当該設備用)	m <sup>3</sup>
	加压送水装置	ポンプ方式 ユニット型	ポンプ、電動機	専用・兼用 電圧 V 呼水装置 起動用圧力タンク	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力 φ × L/min × m × kw	
②			有・無	有効容量	L 減水警報の表示場所	
			有・無	容 量	L ポンプ設置場所	
	高架水槽方式	有効落差 m	圧力水槽方式	加圧圧力	MPa	内容積 m <sup>3</sup>
屋内消火栓	1号 個	2号 個	易操作性 1号	個	合 計	個
屋外消火栓	個	ホース	長さ m	本	表示灯	専用・兼用
③	噴霧ヘッド	標準放射量 L/min	標準放射圧力 MPa	放射角度 °		
	泡放出口	フォームヘッド	個・フォームウォータースプリンクラーヘッド		個	
		高発泡用泡放出口	個・泡ノズル	個・その他( )		個
	泡消火設備の方式	固定式(全域・局所)・移動式	高発泡・低発泡	一斉開放弁	A	個
泡消火	種別	たん白泡・合成界面活性剤・水成膜泡	貯蔵量	L	希釀容量濃度	%
薬 剤	混合方式	差圧混合方式・管路混合方式・圧入混合方式・ポンプ混合方式・その他( )				
④	放水(出・射)区域	区域数 区域	最大 放水(出・射)面積 m <sup>2</sup>	放水(出・射)量 L/min	放出体積 m <sup>3</sup>	
			最小 放水(出・射)面積 m <sup>2</sup>	放水(出・射)量 L/min	放出体積 m <sup>3</sup>	
⑤	起動装置	ポンプ起動方式	自火報発信機・専用スイッチ・起動用水圧開閉装置・流水検知装置・その他			
		起動感知方式	スプリンクラーヘッド・感知器・その他( )		手動式開放弁	
	自動警報装置	流水検知装置 A 個	压力検知装置	個	・その他	
⑥	配管	立上がり管口径 A	材質	専用・兼用( )		設備
	止水弁		逆止弁	その他( )		
⑦	ブローバル・ポンプ、電動機	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		補助水槽		
		φ × L/min × m × kw			m <sup>3</sup>	
		φ × L/min × m × kw			m <sup>3</sup>	
電源	常用電源	単相・三相 AC V 電灯回路・動力回路				
		DC V AH 充電方式 トリクル・浮動	使用別		専用・共用	
⑧	非常電源	自家発電設備 単相・三相 AC・DC V kVA	使用別		専用・共用	
	蓄電池設備	DC V AH 充電方式 トリクル・浮動	使用別		専用・共用	
	非常電源専用受電設備	単相・三相 AC V				
配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )				)
⑨	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他( )				)
	警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他( )				)
	その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )				)
⑩	その他					

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

## ①水源について

- ・「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲む。
- ・「種別」について、該当するものを□で囲む。
- ・「有効水量」を記入する。

なお、水源が兼用される場合は、水噴霧消火設備に使用可能な「有効水量」を記入する。

## ②加圧送水装置について

- ・ポンプ、電動機：「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、その「仕様」を記入する。
- ・呼水装置：①「有無」について、該当する方を□で囲み、呼水装置が設置される場合は、「有効容量」を記入する。  
②減水警報が表示される「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・ポンプ設置場所：「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・高架水槽方式：「有効落差」を記入する。
- ・圧力水槽：「圧力計の指示値」及び「内容積」を記入する。

## ③噴霧ヘッドについて

- ・「標準放射量」、「標準放射圧力」及び「放射角度」を記入する。

## ④放水（出・射）区域について

- ・「放射区域の数」を記入し、その中の最大及び最小となる「放射区域面積」、「放射量」及び「放出体積」を記入する。

## ⑤起動装置について

- ・ポンプの「起動方式」で、該当するものを□で囲む。

## ⑥配管について

- ・立上り管の「口径」並びに配管及びバルブ類の「材質」（JIS番号（合成樹脂管の場合は認定番号））を記入する。また、配管の「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、兼用する場合は、兼用する消火設備を（ ）内に記入する。

## ⑦ブースターポンプについて

- ・ブースターポンプを設けた場合は、その「仕様」を記入する。

## ⑧電源について

### 【常用電源】

- ・AC・DCの区分により、該当するものを選択及び記入する。  
ACの場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。  
DCの場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

### 【非常電源】

- ・非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
自家発電設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「使用別」について、該当するものを□で囲む。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

非常電源専用受電設備の場合は、「電圧」を記入する。

## ⑨配線について

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

## ⑩その他について

- ・耐火電線又は耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては、工法名及びその他の特記事項を記入する。
- ・送水口を設けた場合は、設置位置及び地盤面からの高さを記入する。

別記様式第2

屋内消火栓設備・屋外消火栓設備  
水噴霧消火設備・泡消火設備 } の概要表

①	水 源	専用・兼用	種 別	地下ピット・床置き・その他 ( )	有効水量 (当該設備用)	m <sup>3</sup>	
	加压送水装置	ポンプ方式 ユニット型	ポンプ、電動機	専用・兼用 電圧 V	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力 φ × L/min × m × kw		
②			呼 水 装 置	有 ・ 無	有効容量 L	減水警報の表示場所	
起動用圧力タンク		有 ・ 無	容 量 L	ポンプ設置場所			
③	高架水槽方式	有効落差 m	圧力水槽方式	加圧圧力	MPa	内容積 m <sup>3</sup>	
④	屋内消火栓	1号 個	2号 個	易操作性 1号 個	合 計	個	
⑤	屋外消火栓	個	ホース	長さ m 本	表示灯	専用 ・ 兼用	
⑥	噴霧ヘッド	標準放射量 L/min	・ 標準放射圧力 MPa	・ 放射角度 °			
⑦	泡放出口	フォームヘッド	個	・ フォームウォータースプリンクラーヘッド	個		
⑧		高発泡用泡放出口	個	・ 泡ノズル 個	・ その他 ( )	個	
⑨	泡消火設備の方式	固定式 (全域・局所)	・ 移動式	高発泡・低発泡	一斉開放弁 A	個	
⑩	泡 消 火 設 備	種別	たん白泡・合成界面活性剤・水成膜泡	貯蔵量 L	希釀容量濃度 %		
⑪	薬 剤	混合方式	差圧混合方式 ・ 管路混合方式 ・ 圧入混合方式	・ ポンプ混合方式	・ その他 ( )		
⑫	放 水 (出・射) 区 域	区域数	最大 放水 (出・射) 面積 m <sup>2</sup>	放水 (出・射) 量 L/min	放出体積 m <sup>3</sup>		
⑬		区域	最小 放水 (出・射) 面積 m <sup>2</sup>	放水 (出・射) 量 L/min	放出体積 m <sup>3</sup>		
⑭	起動装置	ポンプ起動方式	自火報発信機・専用スイッチ・起動用水圧開閉装置・流水検知装置・その他				
⑮		起動感知方式	スプリンクラーヘッド ・ 感知器	・ その他 ( )	手動式開放弁		
⑯	自 動 警 報 装 置	流水検知装置 A 個	・ 圧力検知装置 個	・ その他			
⑰	配 管	立上がり管口径 A	材質	専用・兼用 ( )	設備		
⑱		止水弁	逆止弁	その他 ( )			
⑲	ブ ラ スポ タン ノ イ プ	ポンプ、電動機	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		補助水槽		
⑳			φ × L/min × m × kw		m <sup>3</sup>		
㉑			φ × L/min × m × kw		m <sup>3</sup>		
㉒	電 源	常用電源	単相 ・ 三相 AC V 電灯回路	・ 動力回路			
㉓			DC V AH	充電方式	トリクル ・ 浮動	使用別	
㉔		非常電源	自家発電設備 単相 ・ 三相 AC ・ DC V kVA		使用別	専用・共用	
㉕			蓄電池設備 DC V AH 充電方式	トリクル ・ 浮動	使用別	専用・共用	
㉖		非常電源専用受電設備	単相 ・ 三相 AC V				
㉗							
㉘	配 線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設	・ その他 ( )			
㉙		非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設	・ その他 ( )			
㉚		警 報 回 路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設	・ その他 ( )			
㉛		その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設	・ その他 ( )			
㉕	そ の 他						

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

## ①水源について

- ・「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲む。
- ・「種別」について、該当するものを□で囲む。
- ・「有効水量」を記入する。

なお、水源が兼用される場合は、泡消火設備に使用可能な「有効水量」を記入する。

## ②加圧送水装置について

- ・ポンプ、電動機：「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、その「仕様」を記入する。
- ・呼水装置：①「有無」について、該当する方を□で囲み、呼水装置が設置される場合は、「有効容量」を記入する。  
②減水警報が表示される「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・ポンプ設置場所：「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・高架水槽方式：「有効落差」を記入する。
- ・圧力水槽：「圧力計の指示値」及び「内容積」を記入する。

## ③泡放出口について

- ・該当するヘッド等を□で囲み、「設置個数」を記入する。

## ④泡消火設備の方式

- ・該当するものを□で囲む（固定式の場合は「全域」又は「局所」で、該当する方を□で囲む。）。
- ・「高発泡」又は「低発泡」で、該当する方を□で囲む。
- ・一斉開放弁を設ける場合は、「口径」及び「設置個数」を記入する。

## ⑤泡消火薬剤について

- ・「種別」及び「混合方式」で該当するものを□で囲み、「貯蔵量」及び「希釈容量濃度」を記入する。

## ⑥放水（出・射）区域について

- ・「放射区域の数」を記入し、その中の最大及び最小となる「放射区域面積」、「放射量」及び「放出体積」を記入する。

## ⑦起動装置について

- ・ポンプの「起動方式」で、該当するものを□で囲む。

## ⑧配管について

- ・立上り管の「口径」並びに配管及びバルブ類の「材質」（JIS番号（合成樹脂管の場合は認定番号））を記入する。また、配管の「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、兼用する場合は、兼用する消火設備を（）内に記入する。

## ⑨ブースターポンプについて

- ・ブースターポンプを設けた場合は、その「仕様」を記入する。

## ⑩電源について

### 【常用電源】

- ・AC・DCの区分により、該当するものを選択及び記入する。  
ACの場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。  
DCの場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

### 【非常電源】

- ・非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
自家発電設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「使用別」について、該当するものを□で囲む。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

非常電源専用受電設備の場合は、「電圧」を記入する。

## ⑪配線について

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

## ⑫その他について

- ・耐火電線又は耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては、工法名及びその他の特記事項を記入する。
- ・送水口を設けた場合は、設置位置及び地盤面からの高さを記入する。

別記様式第3

スプリンクラー設備の概要表

①	水 源	専用・兼用	地下ピット・床置き・その他( )				有効水量(当該設備用)	m <sup>3</sup>		
② 加压送水装置	ポンプ方式 ユニット型	ポンプ、電動機	専用・兼用	口径	×	吐出量	×	全揚程 × 出力		
			電圧	V	φ ×	L/min ×	m ×	kw		
		呼水装置	有	・ 無	有効容量	L	減水警報の表示場所			
		起動用圧力タンク	有	・ 無	容 量	L	ポンプ設置場所			
高架水槽方式			有効落差 m	圧力水槽方式	加圧圧力	MPa	内容積	m <sup>3</sup>		
③ スプリンクラーヘッド等	閉鎖型(高感度) 閉鎖型(標準型) 小区画型 側壁型 開放型ヘッド	(温度 °C 個) · (温度 °C 個) · (温度 °C 個) · (温度 °C 個)				減圧弁				
		(温度 °C 個) · (温度 °C 個) · (温度 °C 個) · (温度 °C 個)				有・無				
④	設備の方式	湿式・乾式・予作動式	自動警報装置	流水検知装置	A 個	・	圧力検知装置	個		
⑤	ポンプ起動方式	起動用水圧開閉装置・流水検知装置・その他( )					送水口(双口型	個		
起動感知方式		スプリンクラーヘッド・感知器・その他( )					手動式開放弁			
一斉開放弁		A 個	電動弁等							
⑥	配管	立上がり管口径 A	材質	専用・兼用( 設備)						
⑦	管弁類	止水弁	逆止弁	その他( )						
⑧	放水型ヘッド	固定式( 個) · 可動式( 個)	一斉開放弁	A 個						
⑨ 起動感知方式	加压送水装置 ユニット型	放水型ヘッド ポンプ、電動機	専用・兼用	口径	×	吐出量	×	全揚程 × 出力		
			電圧	V	φ ×	L/min ×	m ×	kw		
		呼水装置	有	・ 無	有効容量	L	減水警報の表示場所			
		起動用圧力タンク	有	・ 無	容 量	L	ポンプ設置場所			
⑩	配管	立上がり管口径 A	材質	専用・兼用( 設備)						
⑪	管弁類	止水弁	逆止弁	その他( )						
⑫ 補助加圧装置	ブースタポンプ ポンプ、電動機	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力				補助水槽				
		φ × L/min × m × kw				m <sup>3</sup>				
		φ × L/min × m × kw				m <sup>3</sup>				
⑬ 電源	常用電源 非常電源	ポンプ、電動機	φ × L/min × m × kw				△			
			φ × L/min × m × kw							
		φ × L/min × m × kw				△				
		φ × L/min × m × kw								
⑭ 配線	常用電源回路 非常電源回路 警報回路 その他の回路	单相	・	三相	AC V	電灯回路	・	動力回路		
		DC	V	AH	充電方式	トリクル	・	浮動		
		自家発電設備	单相	・	三相	AC	・	DC V kVA		
		蓄電池設備	DC	V	AH	充電方式	トリクル	・ 浮動		
⑮ その他	非常電源専用受電設備		单相	・	三相	AC	V			
	露出ケーブル、電線管露出、電線管理設、その他( )									

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

## ①水源について

- ・「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲む。
- ・「種別」について、該当するものを□で囲む。
- ・「有効水量」を記入する。

なお、水源が兼用される場合は、スプリンクラー設備に使用可能な「有効水量」を記入する。

## ②加圧送水装置について

- ・ポンプ、電動機：「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、その「仕様」を記入する。
- ・呼水装置：①「有無」について、該当する方を□で囲み、呼水装置が設置される場合は、「有効容量」を記入する。  
②減水警報が表示される「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・ポンプ設置場所：「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・高架水槽方式：「有効落差」を記入する。
- ・圧力水槽：「圧力計の指示値」及び「内容積」を記入する。

## ③スプリンクラーヘッド等について

- ・スプリンクラーヘッドの種別ごとに、「感知温度」、「設置個数」及び「補助散水栓の設置個数」を記入する。
- ・減圧弁の「有無」について、該当する方を□で囲む。

## ④設備の方式について

- ・スプリンクラー設備の「方式」について、該当するものを□で囲む。
- ・自動警報装置について、該当する方を□で囲む。
- 流水検知装置の場合は、「口径」及び「設置個数」を記入する。
- 圧力検知装置の場合は、「設置個数」を記入する。

## ⑤ポンプ起動方式等について

- ・ポンプの「起動方式」で、該当するものを□で囲む。
- ・送水口の「設置個数」及び「設置場所」を記入する。
- ・一斉開放弁等を設ける場合は、「口径」及び「設置個数」を記入する。

## ⑥配管について

- ・立上り管の「口径」並びに配管及びバルブ類の「材質」（J I S番号（合成樹脂管の場合は認定番号））を記入する。また、配管の「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、兼用する場合は、兼用する消火設備を（ ）内に記入する。

## ⑦放水型ヘッドについて

- ・放水型ヘッドを使用する場合の詳細な概要について記載する。
- ・「固定式」又は「可動式」について、該当する方を□で囲み、「設置個数」を記入する。
- ・一斉開放弁等の「口径」及び「設置個数」を記入する。

## ⑧加圧送水装置について

- ・ポンプ、電動機：「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲み、その「仕様」を記入する。
- ・呼水装置：①「有無」について、該当する方を□で囲み、呼水装置が設置される場合は、「有効容量」を記入する。  
②減水警報が表示される「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・起動用圧力タンク：「有無」について該当する方を□で囲み、起動用圧力タンクが設置される場合は、「容量」を記入する。
- ・ポンプ設置場所：「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）

## ⑨起動感知方式について

- ・該当するものを□で囲む。

## ⑩配管について

- ・「⑥」に準ずる

## ⑪ブースターポンプについて

- ・ブースターポンプを設けた場合は、その「仕様」を記入する。

## ⑫補助加圧装置について

- ・補助加圧装置を設けた場合は、その「仕様」を記入する。

## ⑬電源について

### 【常用電源】

- ・ A C ・ D C の区分により、該当するものを選択及び記入する。  
A C の場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。  
D C の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

### 【非常電源】

- ・ 非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
自家発電設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「使用別」について、該当するものを□で囲む。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。  
非常電源専用受電設備の場合は、「電圧」を記入する。

## ⑭配線について

- ・ 回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

## ⑮その他について

- ・ 耐火電線又は耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては、工法名及びその他の特記事項を記入する。

## 別記様式第4

不活性ガス消火設備・ハロゲン化物消火設備  
粉末消火設備 } の概要表

①	放出方式	全域放出方式・局所放出方式・移動式			制御盤設置位置				
		蓄圧(高圧式・低圧式・その他( ))・加圧							
③	起動方式	手動電気式・手動ガス式・自動式							
④	音響警報	音声・サイレン・音声+サイレン・ブザー・その他( )							
⑤	放出表示灯	設置個数	箇所	回転灯等	設置個数	箇所	赤色表示灯 専用・兼用		
		種別			設置場所				
⑥	消火剤	容器別数量 kg × 容器本数			本				
		kg × 容器本数			本 = 総数量 kg				
	加圧用ガス	窒素ガス・二酸化炭素		数量	m³・L・kg	容器本数	本		
⑦	配管	管							
		弁類	選択弁・放出弁・減圧弁・閉止弁・その他( )						
⑧	放出区域	区域数	最大	放出面積 m²	放出率 kg/s	放出体積 m³			
		区域	最小	放出面積 m²	放出率 kg/s	放出体積 m³			
	移動式消火設備の数		箇所						
⑨	電源	常用電源	単相・三相 AC V	電灯回路		動力回路			
		DC V	AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別	専用・共用		
⑩	配線	非常電源	自家発電設備 単相・三相 AC・DC V	kVA	使用別				
		蓄電池設備 DC V	AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別	専用・共用		
⑪	警報回路	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )						
		非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他( )						
⑫	その他	警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他( )						
		その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )						
		放出区域名	階	面積 体積	換気口	換気装置	排出措置	消火剤量	ヘッド数
1				m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
2				m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
3				m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
4				m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
5				m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
6				m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
7				m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
そ									
の									
他									

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

**①放出方式について**

- ・該当する方を□で囲む。
- ・制御盤を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）

**②貯蔵容器等について**

- ・該当するものを□で囲む。

**③起動方式について**

- ・該当するものを□で囲む。

**④音響警報について**

- ・該当するものを□で囲む。

**⑤放出表示灯等について**

- ・放出表示灯、回転灯等：設置個数を記入する。
- ・放出方式が移動式の場合における赤色表示灯の「専用」又は他の消防設備との「兼用」について、該当する方を□で囲む。

**⑥消防剤について**

- ・消防剤の「種別」を記入する。（例：CO<sub>2</sub>）
- ・消防剤を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・消防剤の「容器別数量」、「容器本数」及び「総数量」を記入する。

**⑦配管について**

- ・配管の「材質」を記入する。
- ・弁類の「種別」について、該当するものを□で囲む。

**⑧放出区域について**

- ・「放出区域の数」を記入し、その中で最大及び最小となる「放出面積」、「放出率」及び「放出体積」を記入する。
- ・放出方式が移動式の場合は、その「設置個数」を記入する。

**⑨電源について**

**【常用電源】**

- ・AC・DCの区分により、該当するものを選択及び記入する。  
ACの場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。  
DCの場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

**【非常電源】**

- ・非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
自家発電設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「使用別」について、該当するものを□で囲む。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

**⑩配線について**

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

**⑪放出区域名について**

- ・各放出区域の「名称（室名）」、「階」、「床面積」、「体積」、「換気口の有無」、「換気装置の有無」、「排出装置の種類」、「消火剤の量」及び「消火ヘッドの数」について、各放出区域ごとに記入する。  
なお、放出区域内に換気口又は換気装置がある場合で、消火剤放出時に換気口が閉鎖する構造又は換気装置が停止する機能を有するものであるときは、（）内の「閉」又は「停」にそれぞれ○を記入する。

**⑫その他について**

- ・空気呼吸器の設置状況及び耐火電線又は耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては、工法名その他の特記事項を記入する。

## 別記様式第4

不活性ガス消火設備・**ハロゲン化物消火設備**の概要表  
粉末消火設備

① 放出方式	全域放出方式・局所放出方式・移動式			制御盤設置位置					
② 貯蔵容器等	蓄圧(高圧式・低圧式・その他( ))			・加圧					
③ 起動方式	手動電気式・手動ガス式・自動式								
④ 音響警報	音声・サイレン・音声+サイレン・ブザー・その他( )								
⑤ 放出表示灯	設置個数	箇所	回転灯等	設置個数	箇所	赤色表示灯	専用・兼用		
⑥ 消火剤	種別			設置場所					
	容器別数量 kg × 容器本数			本					
kg × 容器本数			本 = 総数量		kg				
加圧用ガス	窒素ガス・二酸化炭素		数量	m³・L・kg		容器本数	本		
⑦ 配管	管								
	弁類	選択弁・放出弁・減圧弁・閉止弁・その他( )							
⑧ 放出区域	区域数	最大	放出面積 m²	放出率 kg/s	放出体積 m³				
	区域	最小	放出面積 m²	放出率 kg/s	放出体積 m³				
移動式消火設備の数			箇所						
⑨ 電源	常用電源	単相・三相 AC V	電灯回路	・動力回路					
	非常電源	DC V AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別	専用・共用			
⑩ 電線	常用電源回路	自家発電設備 単相・三相 AC・DC V kVA 使用別							
	非常電源回路	蓄電池設備 DC V AH 充電方式 トリクル・浮動 使用別							
⑪ 警報回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他( )								
	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他( )								
⑫ その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )								
	放出区域名	階	面積体積	換気口	換気装置	排出措置	消火剤量 ヘット数		
1			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
2			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
3			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
4			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
5			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
6			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
7			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
その他									
⑫ その他									

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

**①放出方式について**

- ・該当する方を□で囲む。
- ・制御盤を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）

**②貯蔵容器等について**

- ・該当するものを□で囲む。

**③起動方式について**

- ・該当するものを□で囲む。

**④音響警報について**

- ・該当するものを□で囲む。

**⑤放出表示灯等について**

- ・放出表示灯、回転灯等：設置個数を記入する。
- ・放出方式が移動式の場合における赤色表示灯の「専用」又は他の消防設備との「兼用」について、該当する方を□で囲む。

**⑥消防剤について**

- ・消防剤の「種別」を記入する。（例：ハロン 1301）
- ・消防剤を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・消防剤の「容器別数量」、「容器本数」及び「総数量」を記入する。

**⑦配管について**

- ・配管の「材質」を記入する。
- ・弁類の「種別」について、該当するものを□で囲む。

**⑧放出区域について**

- ・「放出区域の数」を記入し、その中で最大及び最小となる「放出面積」、「放出率」及び「放出体積」を記入する。
- ・放出方式が移動式の場合は、その「設置個数」を記入する。

**⑨電源について**

**【常用電源】**

- ・AC・DCの区分により、該当するものを選択及び記入する。  
ACの場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。  
DCの場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

**【非常電源】**

- ・非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
自家発電設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「使用別」について、該当するものを□で囲む。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

**⑩配線について**

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

**⑪放出区域名について**

- ・各放出区域の「名称（室名）」、「階」、「床面積」、「体積」、「換気口の有無」、「換気装置の有無」、「排出装置の種類」、「消火剤の量」及び「消火ヘッドの数」について、各放出区域ごとに記入する。  
なお、放出区域内に換気口又は換気装置がある場合で、消火剤放出時に換気口が閉鎖する構造又は換気装置が停止する機能を有するものであるときは、（ ）内の「閉」又は「停」にそれぞれ○を記入する。

**⑫その他について**

- ・空気呼吸器の設置状況及び耐火電線又は耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては、工法名その他の特記事項を記入する。

## 別記様式第4

不活性ガス消火設備・ハロゲン化物消火設備  
粉末消火設備 の概要表

① 放出方式	全域放出方式・局所放出方式・移動式			制御盤設置位置					
② 貯蔵容器等	蓄圧(高圧式・低圧式・その他( ))・加圧								
③ 起動方式	手動電気式・手動ガス式・自動式								
④ 音響警報	音声・サイレン・音声+サイレン・ブザー・その他( )								
⑤ 放出表示灯	設置個数	箇所	回転灯等	設置個数	箇所	赤色表示灯	専用・兼用		
⑥ 消火剤	種別			設置場所					
	容器別数量 kg × 容器本数			本					
kg × 容器本数			本 = 総数量 kg						
加圧用ガス	窒素ガス・二酸化炭素		数量	m³・L・kg		容器本数	本		
⑦ 配管	管								
	弁類	選択弁・放出弁・減圧弁・閉止弁・その他( )							
⑧ 放出区域	区域数	最大	放出面積 m²	放出率 kg/s	放出体積 m³				
	区域	最小	放出面積 m²	放出率 kg/s	放出体積 m³				
移動式消火設備の数			箇所						
⑨ 電源	常用電源	単相・三相 AC V	電灯回路	・動力回路					
	非常電源	DC V AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別	専用・共用			
⑩ 電線	常用電源回路	自家発電設備 単相・三相 AC・DC V kVA 使用別							
	非常電源回路	蓄電池設備 DC V AH 充電方式 トリクル・浮動 使用別							
⑪ 警報回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他( )								
	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他( )								
⑫ その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )								
	放出区域名	階	面積体積	換気口	換気装置	排出措置	消火剤量 ヘット数		
1			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
2			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
3			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
4			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
5			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
6			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
7			m² m³	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg 個		
その他									
⑬ の									
⑭ 他									

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

**①放出方式について**

- ・該当する方を□で囲む。
- ・制御盤を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）

**②貯蔵容器等について**

- ・該当するものを□で囲む。

**③起動方式について**

- ・該当するものを□で囲む。

**④音響警報について**

- ・該当するものを□で囲む。

**⑤放出表示灯等について**

- ・放出表示灯、回転灯等：設置個数を記入する。
- ・放出方式が移動式の場合における赤色表示灯の「専用」又は他の消火設備との「兼用」について、該当する方を□で囲む。

**⑥消防剤について**

- ・消防剤の「種別」を記入する。（例：第3種 粉末）
- ・消防剤を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・消防剤の「容器別数量」、「容器本数」及び「総数量」を記入する。
- ・消防剤を加圧放出するための「ガスの種類」で、該当するものを□で囲み、「ガス量」及び「容器の本数」を記入する。

**⑦配管について**

- ・配管の「材質」を記入する。
- ・弁類の「種別」について、該当するものを□で囲む。

**⑧放出区域について**

- ・「放出区域の数」を記入し、その中で最大及び最小となる「放出面積」、「放出率」及び「放出体積」を記入する。
- ・放出方式が移動式の場合は、その「設置個数」を記入する。

**⑨電源について**

**【常用電源】**

- ・AC・DCの区分により、該当するものを選択及び記入する。  
ACの場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。  
DCの場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

**【非常電源】**

- ・非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
自家発電設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「使用別」について、該当するものを□で囲む。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

**⑩配線について**

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

**⑪放出区域名について**

- ・各放出区域の「名称（室名）」、「階」、「床面積」、「体積」、「換気口の有無」、「換気装置の有無」、「排出装置の種類」、「消火剤の量」及び「消火ヘッドの数」について、各放出区域ごとに記入する。  
なお、放出区域内に換気口又は換気装置がある場合で、消火剤放出時に換気口が閉鎖する構造又は換気装置が停止する機能を有するものであるときは、（ ）内の「閉」又は「停」にそれぞれ○を記入する。

**⑫その他について**

- ・空気呼吸器の設置状況及び耐火電線又は耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては、工法名その他の特記事項を記入する。

## 別記様式第5

## 動力消防ポンプ設備概要表

						(棟別 ①)	棟)								
②	防 火 対 象 物 規 模	構 造		階 数		建築面積 m <sup>2</sup>									
		耐 火 準 耐 火 そ の 他		地上 階		延べ面積 m <sup>2</sup>	1.2階の床面積の合計 m <sup>2</sup>								
③	項 目		名 称 ・ 材 質 ・ 寸 法 等												
	ポンプ別		消防ポンプ自動車、可搬消防ポンプ												
④	ポン プ	型 式													
		級 別		級											
		圧 力		MPa		放水量 ℓ/min									
		設置位置													
⑤	ホース	材質		内径 mm		長さ m									
⑥	筒先	材質		筒先口径 mm		本数									
⑦	水 源	種類		地下式・半地下式・据置式・その他( )											
		有効水量 m <sup>3</sup>		m <sup>3</sup>		m <sup>3</sup>									
		設置個数 個													
⑧	設計、施工業者氏名														
⑨	備考														

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

## ①棟別について

- ・概要表は棟別を原則とし、複数棟ある場合は、その棟ごとの「名称」を記入する（建物名称が決定していない場合は、仮称でも差し支えない。）。

## ②防火対象物規模について

- ・構造について、該当するものを□で囲む。

なお、主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。

- ・「階数」、「建築面積」、「延べ面積」及び「1階及び2階の部分の床面積の合計」を記入する。

- ・主たる用途を記入する。（例：工場）

※令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）

## ③ポンプ別について

- ・種別について、該当するものを□で囲む。

## ④ポンプについて

- ・ポンプの「仕様」を記入する。

- ・ポンプの「設置位置」を記入する。

## ⑤ホースについて

- ・「材質」、「口径」、「長さ」及び「設置本数」を記入する。

## ⑥筒先について

- ・「材質」、「ノズル口径」及び「設置本数」を記入する。

## ⑦水源について

- ・水源の「種類」について、該当するものを□で囲む。

- ・水源の「有効水量」を記入する。

なお、有効水量は常時水源として使用できる水量を記入し、複数の場合はそれぞれの水量を記入すること。

- ・敷地内に設置する水源の「設置個数」を記入する。

## ⑧設計、施工業者名について

- ・設計及び施工業者名を記入する。

## ⑨備考について

- ・動力消防ポンプ及び水源が複数設けられている場合は、その概要を上記に準じて記入する。

## 別記様式第6

## 自動火災報知設備の概要表

(その1)

	機種		蓄積	自動	遠隔	種別	個数
	式型( )						
① 感 知 器	型式番号	感 第 号	製造会社名				
	式	型( )					
	型式番号	感 第 号	製造会社名				
	式	型( )					
	型式番号	感 第 号	製造会社名				
	式	型( )					
	型式番号	感 第 号	製造会社名				
	式	型( )					
	型式番号	感 第 号	製造会社名				
	式	型( )					
② 発信機	型式番号	感 第 号	製造会社名				
	屋内型	型級 個	型式番号 発第 号	製造会社名			
	屋外型	型級 個	型式番号 発第 号	製造会社名			
	表示灯	V 個					
③ 中 継 器	種別	回線数	電源供給方式	設置台数			
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AH)・受信機・その他 ( )				
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AH)・受信機・その他 ( )				
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AH)・受信機・その他 ( )				
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AH)・受信機・その他 ( )				
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AH)・受信機・その他 ( )				
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AH)・受信機・その他 ( )				
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AH)・受信機・その他 ( )				
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AH)・受信機・その他 ( )				
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AH)・受信機・その他 ( )				
④ 製 造 会 社 名							

別記様式第6

(その2)

⑤ 受信機	蓄積式・二信号式・アナログ式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・その他( )							
	P・GP型 級 / 回線 R・GR型		自火報点数		点	その他( )	点数	点
	予備電源 (DC V AH)		設置場所		階 室			
型式番号 受第 号		製造会社名						
⑥ 表示器	/ 回線 台 自火報点数 点 その他点数 点 予備点数 点							
	/ 回線 台 自火報点数 点 その他点数 点 予備点数 点							
⑦ 電源	常用電源		単相・三相 AC V 非常電源専用受電設備回路・電灯回路・動力回路					
			DC V AH	充電方式 (トリクル・浮動)		使用別 (専用・共用( ))		
	非常電源		非常電源専用受電設備 単相・三相 AC V					
		蓄電池設備 DC V AH 充電方式 (トリクル・浮動) 使用別 (専用・共用( ))						
⑧ 音響装置	主音響装置 (内蔵されているものは除く)		ベル・サイレン・電子ブザー・音声合成・その他( )					
	鐘径 mm	定格DC	V	mA	個			
			型式番号(号)		製造会社名			
⑨ 配線	地区音響装置		ベル・サイレン・電子ブザー・スピーカー・その他( )					
	鐘径 mm	定格DC	V	mA	個	dB		
			型式番号(号)		DC	V	製造会社名	
⑩ ⑩ 関連設備	常用電源	単相 AC	V	非常電源専用受電設備回路・電灯回路				
	非常電源	蓄電池設備	DC V AH	充電方式 (トリクル・浮動)				
⑪ 工事者区分	常用電源回路		ケーブル露出・電線管露出・電線管埋設・その他( )					
	非常電源回路		耐火電線・電線管露出・電線管埋設・その他( )					
	警報回路		耐熱電線・電線管露出・電線管埋設・その他( )					
	その他回路		IV電線・ケーブル露出・電線管露出・電線管埋設・その他( )					
⑫ その他	消防設備( )		・火災通報装置・誘導灯信号装置					
			非常警報設備・放送設備・その他( )					
	電源工事							
	配線工事							
	配線工事							
機器の取付け工事								

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。  
 3 感知器記入欄の( )内は、その機能又は性能を記入すること。  
 4 関連設備の消防設備( )内は、その設備等の種類を記入すること。

## ①感知器について

- ・「機種」、「型式番号」及び「製造会社名」を記入する。
- ・「保有する機能」（蓄積機能、自動試験機能及び遠隔試験機能）について、該当するものに○を記入する。
- ・「種別」及び「設置個数」を記入する。

## ②発信機について

- ・「型式」（P型）、「級別」（1級・2級）及び「設置個数」を記入する。
- ・「型式番号」及び「製造会社名」と記入する。

## ③表示灯について

- ・「電圧」及び「設置個数」を記入する。

## ④中継器について

- ・「種別」について、該当するものを□で囲み、「型式番号」を記入する。
- ・種別ごとに、「回線数」を記入する。
- ・種別ごとに、「電源供給方式」について、該当するものを□で囲む。  
なお、専用を選択した場合は、予備電源の「電圧」及び「容量」を記入する。
- ・「設置台数」及び「製造会社名」を記入する。

## ⑤受信機について

- ・「保有する機能」（蓄積機能、自動試験機能及び遠隔試験機能）について、該当するものを□で囲む。
- ・P型又はGP型の場合は、該当する「型式」（P型・GP型）を□で囲み、「級」、「使用する回線数」及び「全回線数」を記入する。
- R型又はGR型の場合は、該当する「型式」（R型・GR型）を□で囲み、自火報点数（自火報の実装表示点数）を、その他点数（自火報以外の実装表示点数）を、予備点数（自火報、その他点数以外の実装点数）をそれぞれ記入する。
- ・予備電源の「電圧」及び「容量」を記入する。
- ・「型式番号」及び「製造会社名」を記入する。
- ・受信機を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）

## ⑥表示器について

- ・「使用する回線数」及び「全回線数」並びにアドレス表示点数を記入する。

## ⑦電源について

### 【常用電源】

- ・AC・DCの区分により、該当するものを選択及び記入する。  
ACの場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。  
DCの場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

### 【非常電源】

- ・非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
非常電源専用受電設備の場合は、「電圧」を記入する。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

## ⑧音響装置について

- 「主音響装置」は、次の事項を記入する。
- ・該当する「種別」のものを□で囲む。
- ・当該装置の「大きさ」を記入し、「電圧」、「電流」及び「個数」を記入する。
- ・品質評価の「型式番号」及び「製造会社名」を記入する。

「地区音響装置」は、主音響装置に準じて記入する。ただし、認定番号については、ベル、サイレン、電子ブザー等は、非常警報設備認定業務委員会の型式番号を、スピーカーは非常用放送設備委員会の型式番号を記入する。

「音声切替装置」は、次の事項を記入する。

- ・品質評価の「型式番号」及び「電圧」を記入する。
- ・当該装置の「製造会社名」を記入する。
- ・「⑦」の電源に準じて記入する。

## ⑨配線について

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

## ⑩関連設備について

- ・「関連する設備」について、該当するものを□で囲む。  
なお、消防設備の場合は、（）内に該当する消防設備名を記入する。

**⑪工事者区分について**

- ・工事区分ごとに、施工する「会社名」を記入する。

**⑫その他について**

- ・耐火電線又は耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては、工法名その他の特記事項を記入する。

## 別記様式第7

ガス漏れ火災警報設備の概要表

① 検知器	検知対象ガス	空気より軽い都市ガス	空気より重い都市ガス	その他のもの	
	個数	個	個	個	
② 中継器	回線 個	電源 個	専用方法 受信機供給方法 その他の方法	予備電源 V AH	
③ 受信機	区分	型	回線数	/	回線
	附属装置		附属回路		
	予備電源	V AH	設置場所	階	
④ 電源	常用電源	単相・三相 AC V	電灯回路	・ 動力回路	
		DC V AH	充電方法	トリクル・浮動	使用別 専用・共用
	非常電源	蓄電池設備 DC V AH	充電方法	トリクル・浮動	使用別 専用・共用
		インバーター出力		VA	
	自家発電設備	単相・三相 AC V	kVA		
⑤ 警報装置	音声警報装置	増幅器出力 定格 W	スピーカー個数 個	非常用放送設備と兼用 有・無	
	ガス漏れ表示灯	中継器附属のもの	その他もの		
		個		個	
⑥ 配線	検知区域警報装置	検知器附属のもの	その他もの		
		個		個	
⑦ 工事者区分	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線埋設・その他( )			
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線埋設・その他( )			
	検知器回路	耐熱電線・電線管露出・電線埋設・その他( )			
	警報装置回路	耐熱電線・電線管露出・電線埋設・その他( )			
	その他回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線埋設・その他( )			
⑧ 製造者名	受信機製造会社		型式番号		
	中継器製造会社		型式番号		
	検知器製造会社				
⑨ その他					

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

## ①検知器について

- ・ガスの区分ごとに、検知器の「設置個数」を記入する。  
なお、都市ガス以外のガスは、「⑨その他」の欄に検知対象ガス名を記入すること。

## ②中継器について

- ・使用する「回線数」及び「設置個数」を記入し、「電源供給方式」について、該当するものを□で囲む。また、予備電源を要するものは、「電圧」及び「容量」を記入する。

## ③受信機について

- 受信機の概要について、次の事項を記入する。
- ・該当する区分（G型、G P型、G R型等）を記入する。
  - ・「使用する回線数」及び「全回線数」を記入する。
  - ・「附属装置の種類」並びに「附属回路の種類及び回路（回線）数」を記入する。
  - ・予備電源の「電圧」及び「容量」を記入する。
  - ・受信機を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）

## ④電源について

### 【常用電源】

- ・A C・D Cの区分により、該当するものを選択及び記入する。  
A Cの場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。  
D Cの場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

### 【非常電源】

- ・非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
非常電源専用受電設備の場合は、「電圧」を記入する。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

## ⑤警報装置について

- ・「音声警報装置」：「増幅器の出力」及び「スピーカーの設置個数」を記入し、非常用放送設備との兼用の「有無」について、該当する方を□で囲む。
- ・「ガス漏れ表示灯」及び「検知区域警報装置」：該当するものに「設置個数」を記入する。

## ⑥配線について

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

## ⑦工事者区分について

- ・工事区分ごとに、施工する「会社名」を記入する。

## ⑧製造者名について

- ・機器別に「製造会社名」を記入する。  
なお、受信機及び中継器については、「型式番号」を記入する。

## ⑨その他について

- ・耐火電線又は耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては、工法名その他の特記事項を記入する。

## 漏電火災警報器概要表

(棟別)

①

棟)

防火対象物の概要	構 造	階 数	建築面積 m <sup>2</sup>	用 途	
	耐火・準耐火 防火・その他 ( )	地上 階 地下 階	延べ面積 m <sup>2</sup>	最大負荷電流の合計 A	
	外 壁	壁	床	天 井	
間柱 下地 鉄綱	間柱 下地 鉄綱	根太 下地 鉄綱	天井 野縁 鉄綱		
入り・なし	入り・なし	入り・なし	入り・なし		
機器等の概要	受信機	製造会社名	型 式	消防庁検定型式番号	級 別
					級
	遮断機	種 別	屋内型 互換性型	屋外型 非互換性型	
	設置位置				
	地工事		有	無	
	検出漏えい電流設定値	mA	電源の定格電圧	V	
	変流器	種 別	屋内型	屋外型	
	構造種別		貫通型	分割型	
	設置位置				
	互換性の有無		互換性型	非互換性型	
警戒電路の種別		屋内電路 第2種接地線	屋外電路		
警戒電路の定格電流	mA 以下	警戒電路の定格電圧	V 以上		
警戒電路の周波数	ヘルツ	定格電流	A		
保護力バーの接 地		有	無		
音響装置	種 別	ベル・サイレン・ブザー	ヶ所		
設置位置					
設計、施工業者氏名					
④					
⑤	備 考				

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

#### ①棟別について

- ・概要表は棟別を原則とし、複数棟ある場合は、その棟ごとの「名称」を記入する（建物名称が決定していない場合は、仮称でも差し支えない。）。

#### ②防火対象物の概要について

- ・「構造」について、該当するものを□で囲む。

なお、主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。

また、ネオン管灯設備を設置する場合は、その他の（ ）内に設備名を記入する。

- ・「階数」、「建築面積」及び「延べ面積」を記入する。
- ・「主たる用途」を記入する。（例：工場）

※令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）

建築物又はネオン管灯設備に係る「最大負荷電流の合計数値」を記入する。ただし、共同住宅等で、最大負荷電流がとれないものについては、ブレーカーの合計容量を記入する。

- ・「外壁」、「壁」、床及び「天井」について、使用する材料名を記入し、鉄網の「有無」について、該当する方を○で囲む。

#### ③機器等の概要について

##### 【受信機】

- ・「製造会社名」、「型式」等を記入する。
- ・「種別」について、該当する方を□で囲む。
- ・設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・漏電火災警報器の作動と連動して電流の遮断を行う装置の「有無」について、該当する方を□で囲む。
- ・接地工事の「有無」について、該当する方を□で囲む。
- ・「電流設定値」及び「定格電圧値」を記入する。

##### 【変流器】

- ・「種別」について、該当する方を□で囲む。
- ・「構造種別」について、該当する方を□で囲み、「設置位置」を記入する。
- ・互換性の「有無」について、該当する方を□で囲む。
- ・警戒電路の「種別」について、該当する方を□で囲む。
- ・警戒電路の「定格電流」、「定格電圧」、「周波数」及び変流器の「定格電流値」を記入する。
- ・保護カバーの接地の「有無」について、該当する方を□で囲む。

##### 【音響装置】

- ・「種別」について、該当するものを□で囲み、設置個数を記入し、当該装置が設置される「設置位置」を記入する。

#### ④設計、施工業者名について

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

#### ⑤備考について

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第9

消防機関へ通報する火災報知設備の概要表

① 火 災 通 報  ② 装 置  ③ 工事者区分  ④ そ の 他	品名・型式				型式番号	
	製造会社名					
	設置場所	階 室				
	遠隔起動装置	設 置 場 所	電話機付 (台)	(1)	(2)	(3)
				(4)	(5)	(6)
			電話機なし (台)	(1)	(2)	(3)
				(4)	(5)	(6)
	選択信号送出方式	DP方式(10PPS、20PPS)・PB方式				
	自動火災報知設備連動	有・無				
	常用電源	AC V				
	予備電源	DC V AH				
	M型発信機	設置場所				
	工事者区分	電源工事				
		配線工事				
		機器の取付工事				
		工事担当者(電話工事)	氏名		資格	

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

3 工事者区分欄には、設備会社名等を記入すること。

**①火災通報装置について**

- ・「品名」、「型式」、「型式番号」及び「製造会社名」を記入する。
- ・当該装置本体を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・遠隔起動装置を設ける場合は、電話機の有無で区別して、当該装置が設置される「階」、「室名」及び「設置台数」を記入する。
- ・「選択信号送出方式」について、該当する方を□で囲む。
- ・自動火災報知設備の連動の「有無」について、該当する方を□で囲む。
- ・常用電源の「電圧」を記入する。
- ・予備電源の「電圧」及び「容量」を記入する。

**②M型発信機について**

- ・M型発信機を設置する場合は、当該装置を設置する「階」及び「室名」並びに「設置台数」を記入する。

**③工事者区分について**

- ・工事区分ごとに、施工する「会社名」を記入する。

**④その他について**

- ・当該設備の通報メッセージの内容を記入する。  
なお、新築の場合で、建物の住居表示、建物名称、代表電話番号等が決定していない場合は、仮記入でも差し支えない。

## 別記様式第10

## 非常警報設備概要表

(棟別)

①

棟)

②	構 造 防 火 対 象 物 規 模	階 数 耐 準 耐 そ の 他	地上 階 地下 階	建築面積 m <sup>2</sup>		用途 延べ面積 m <sup>2</sup>	収容人員 名 ( 世帯 )	
起動装置の設置場所								
③	区分 階別	用 途	場 所・位 置 (床面からの高さ)	設 置 個 数	区分 階別	用 途	場 所・位 置 (床面からの高さ)	設 置 個 数
	階			個	階			個
	階			個	階			個
	階			個	階			個
	階			個	階			個
	階			個	階			個
	階			個	階			個
④	非常警報設備の種類		一体型・複合装置型 鳴動区分		一斉・区分( )			
⑤	電 源	非常電源専用受電設備		AC	V			
		蓄電池	種 別	容 量	充電方式	充電電流		
別置・内蔵	AH	H	トリクル 浮動	mA				
アルカリ 鉛								
⑥	配 線	施 工 方 法		使 用 電 線		太 さ		
		非常電源				mm		
		常用電源回路				mm		
		警報回路 操作回路				mm		
		表示灯回路				mm		
設計、施工業者氏名								
⑦								
⑧	備考							

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

#### ①棟別について

- ・概要表は棟別を原則とし、複数棟ある場合は、その棟ごとの「名称」を記入する（建物名称が決定していない場合は、仮称でも差し支えない。）。

#### ②防火対象物規模について

- ・「構造」について、該当するものを□で囲む。  
なお、主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。
- ・「階数」、「建築面積」及び「延べ面積」を記入する。
- ・「主たる用途」を記入する。（例：工場）  
※ 令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）
- ・規則第1条の3の規定により算出した「収容人員」を記入する。

#### ③起動装置の設置場所について

- ・「用途」、「室名」、「床面からの高さ」及び「設置個数」を階ごとに記入する。  
この場合、下層階から順に記入すること。

#### ④非常警報設備の種類について

- ・「種類」及び「鳴動区分」について、該当する方を□で囲む。

#### ⑤電源について

- ・非常電源の「区分」で、該当するものを□で囲む。  
非常電源専用受電設備の場合は、「電圧」を記入する。  
蓄電池設備の場合は、「容量」及び「充電電流値」を記入し、「種別」及び「充電方式」について、該当するものを□で囲む。

#### ⑥配線について

- ・回路ごとに、「施工方法」、「使用電線」及び「使用電線の太さ」を記入する。

#### ⑦設計、施工業者名について

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

#### ⑧備考について

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第11

## 非常警報設備（放送）概要表

(棟別 ① 棟)

②	防 火 対 象 物 規 模	構 造	階 数	建築面積		用途	
		耐 火 準 耐 火 そ の 他	地上 階 地下 階	m <sup>2</sup>		収容人員	
③	使 用 状 況	専 有 設 備 共 用 設 備 ( )					
④	増 幅 器	型 式	方 式	電 源	消 費 電 力		出 力
			トランジスター 真 空 管	AC100V DC24V	AC時 VA DC時 W	定格 W 最大 W	
⑤	操 作 部	放送区分	一斉・階別等選択		回線数	遠 隔 操 作 器	無 有 ( )
⑥	防災センター	設 備 場 所	区 画 構 造		内 装		床面積 m <sup>2</sup>
		開口部	特定防火設備 m <sup>2</sup> 防火設備 m <sup>2</sup>		ヶ所 常時閉鎖・煙連動 ヶ所 常時閉鎖・煙連動		
⑦	起 動 装 置	押ボタン・非常電話・インターホン			個	感 知 器	發 信 機
⑧	スピーカー	配線方式	型 名	型 式	定 格	入 力	施 工 方 法
		2 線 式 3 線 式		L級 個 M級 個 S級 個	W 個 W 個 W 個	W 個 W 個 W 個	壁掛 個 埋込 個 その他 個
⑨	電 源	常用電源	AC - V	専用・兼用 ( )			
		非常電源	種 別	容 量	電 壓	充電方式	充電電流 mA
⑩	配 線	電 源 回 路 警 告 回 路		時間率	DC V	トリクル 浮 動 その他の	
⑪	設計、施工業者氏名						
⑫	備考						

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## ①棟別について

- ・概要表は棟別を原則とし、複数棟ある場合は、その棟ごとの「名称」を記入する（建物名称が決定していない場合は、仮称でも差し支えない。）。

## ②防火対象物規模について

- ・「構造」について、該当するものを□で囲む。

なお、主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。

- ・「階数」、「建築面積」及び「延べ面積」を記入する。

- ・「主たる用途」を記入する。（例：工場）

※ 令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）

- ・規則第1条の3の規定により算出した「収容人員」を記入する。

## ③使用状況について

- ・「使用状況」について、該当する方を□で囲み、共用の場合は設備名を（ ）内に記入する。

## ④増幅器について

増幅器の概要について、次の事項を記入する。

- ・「型式」を記入する。

- ・「方式」について、該当する方を□で囲む。

- ・A C、D C別に「電源」、「消費電力」及び「出力（定格及び最大）」を記入する。

## ⑤操作部について

- ・「放送区分」について、該当する方を□で囲み、「使用する回線数」及び「全回線数」を記入する。

・遠隔操作器の「有無」について、該当する方を○で囲み、「有」の場合は、当該装置を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）

## ⑥防災センターについて

総合操作盤を設ける防火対象物の場合、防災センターの概要について、次の事項を記入する。

- ・防災センターが存する「階」を記入する。

・当該室の「構造」（耐火構造、準耐火構造又はその他）、「内装」（不燃材料、準不燃材料、難燃材料又はその他）及び「床面積」を記入する。

なお、内装については、下地、仕上げ共に記入する。

・開口部が設けられている場合は、特定防火設備又は防火設備の区分ごとに、当該開口部の「大きさ」（開口部が2以上ある場合はその合計面積とする。）、「設置数」を記入し、開口部の「閉鎖方式」について、該当する方を□で囲む。

## ⑦起動装置について

- ・該当するものを□で囲み、当該装置の「設置個数」を記入する。

## ⑧スピーカーについて

- ・「配線方式」について、該当するものを□で囲む。

- ・L級、M級、S級の各級のスピーカーごとに、「型名」、「設置個数」、「定格入力」及び「設置方法」（壁掛、埋込等）を記入する。

## ⑨電源について

### 【常用電源】

- ・「電圧」を記入し、「専用」又は「兼用」について、該当する方を□で囲む。

なお、兼用の場合は、その設備名を（ ）内に記入する。

### 【非常電源】

- ・「種別」及び「充電方式」について、該当するものを□で囲み、「蓄電容量」、「放電電圧」及び「充電電流」の値を記入する。

## ⑩配線について

- ・回路ごとに、「施工方法」、「使用電線」及び「使用電線の太さ」を記入する。

## ⑪設計、施工業者名について

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

## ⑫備考について

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 総合操作盤の概要表

品名・型式				
①	音響装置		<input type="checkbox"/> ベル・ <input type="checkbox"/> ブザー・ <input type="checkbox"/> 音声警報・その他( )	
	表示方法		<input type="checkbox"/> CRT・ <input type="checkbox"/> グラフィックパネル・ <input type="checkbox"/> 窓・その他( )	
製造会社名				
②	監視場所(副監視)(遠隔監視)		階室	
	電源	常用電源	AC	V
	非常電源	<input type="checkbox"/> 非常電源専用受電設備・ <input type="checkbox"/> 非常電源(自家発電設備)・ <input type="checkbox"/> 蓄電池設備 DC V AH		
③	<input type="checkbox"/> 屋内消火栓設備		<input type="checkbox"/> スプリンクラー設備	<input type="checkbox"/> 水噴霧消火設備
	<input type="checkbox"/> 泡消火設備		<input type="checkbox"/> 不活性ガス消火設備	<input type="checkbox"/> ハロゲン化物消火設備
	<input type="checkbox"/> 粉末消火設備		<input type="checkbox"/> 屋外消火栓設備	<input type="checkbox"/> 自動火災報知設備
	<input type="checkbox"/> ガス漏れ火災警報設備		<input type="checkbox"/> 非常警報設備(放送設備に限る。)	<input type="checkbox"/> 誘導灯
	<input type="checkbox"/> 排煙設備		<input type="checkbox"/> 連結散水設備	<input type="checkbox"/> 連結送水管
	<input type="checkbox"/> 非常コンセント設備		<input type="checkbox"/> 無線通信補助設備	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④	<input type="checkbox"/> 排煙設備		<input type="checkbox"/> 非常用の照明設備	<input type="checkbox"/> 機械換気
	<input type="checkbox"/> 空気調和		<input type="checkbox"/> 非常用エレベーター	<input type="checkbox"/> 防火区画(構成機器設備)
	<input type="checkbox"/> 防煙区画(構成機器設備)		<input type="checkbox"/> 非常錠設備	<input type="checkbox"/> ITV設備
	<input type="checkbox"/> ガス緊急遮断弁		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤	電源工事			
	配線工事			
	配線工事			
	機器の取付工事			
	機器の取付工事			
	機器の取付工事			
⑥	その他			

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項の□印内をチェックすること。  
 3 工事者区分欄には、設備会社名等を記入すること。

**①品名・型式等について**

- ・「品名」、「型式」及び「製造会社名」並びに監視場所の「階」及び「室名」を記入する。  
また、「音響装置」及び「表示方法」について、該当するものにチェックする。

**②電源について**

- ・常用電源 の「電圧」を記入し、非常電源の「区分」で、該当するものにチェックする。  
蓄電池設備の場合は、「電圧」及び「容量」を記入する。

**③消防用設備等について**

- ・「設置する設備」について、該当するものにチェックする。

**④避難設備及び建築設備等について**

- ・「設置する設備」について、該当するものにチェックする。

**⑤工事者区分について**

- ・工事区分ごとに、施工する「会社名」を記入する。

**⑥その他について**

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第13

避難器具の概要表

①	防 火 対 象 物 の 概 要							
	名 称			所 在 地				
	用 途			階数（階層）	地上 階	地下 階	塔屋 階	
主 要 構 造 部	耐火構造・準耐火構造・その他（ ）			延べ面積	m <sup>2</sup>			
②	避 難 器 具 の 概 要							
	階 別	床 面 積	用 途	収容人員	無窓該当	階段の数	減 免 数 設 置 数	避難器具の種別（個数）
								は（ ）・袋（ ）・緩（ ）
								は（ ）・袋（ ）・緩（ ）
								は（ ）・袋（ ）・緩（ ）
								は（ ）・袋（ ）・緩（ ）
								は（ ）・袋（ ）・緩（ ）
								は（ ）・袋（ ）・緩（ ）
								は（ ）・袋（ ）・緩（ ）
								は（ ）・袋（ ）・緩（ ）
							は（ ）・袋（ ）・緩（ ）	
③	避難器具の種別							
	型 式 番 号	第 ~ 号	第 ~ 号	第 ~ 号	第 ~ 号	第 ~ 号		
	設置場所の状況 (用途、構造等)							
	開口部の大きさ 縦 × 横 (cm)	×	×	×	×	×		
	腰 高 (cm)							
	操作面積 (m <sup>2</sup> )							
	固 定 位 置							
	固 定 方 法							
	固定部材にかかる 設計荷重 (kN)							
	固定部材の許容 応力 (kN)							
④	そ の 他							

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 避難器具の種別（個数）欄は、「は」は金属製避難はしご、「袋」は救助袋、「緩」は緩降機を表し、避難器具の種別の後の（ ）内にそれぞれの種別ごとの設置個数を記載すること。

#### ①防火対象物の概要について

- ・「名称（建物名称が決定していない場合は、仮称でも差し支えない。）」、「所在地」、「階数」及び「延べ面積」を記入する。
- ・「主たる用途」を記入する。（例：工場）  
※令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）
- ・「構造」について、該当するものを□で囲む。  
なお、主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。

#### ②避難器具の概要について

- 避難器具が設置される階の概要について、次の事項を記入する。この場合、下層階から順に記入すること。
- ・「床面積」及び「用途」を階ごとに記入する。
  - ・規則第1条の3の規定により算出した「収容人員」を階ごとに記入する。
  - ・無窓階の「有無」について、階ごとに記入する。この場合、当該階が規則第5条の5に規定する普通階に該当する場合は「無」、無窓階に該当する場合は「有」と記入し、地階の場合は「地階」と記入する。
  - ・当該階から下階へ通ずる「階段の数」を階ごとに記入する。
  - ・規則第26条の規定等により、避難器具の設置個数を減免する場合は、「減免する避難器具の個数」を階ごとに記入する。
  - ・避難器具の「設置個数」を階ごとに記入する。
  - ・設置する避難器具の「種別ごとの設置個数」を記入する。

#### ③避難器具の種別について

- ・設置する避難器具の「種別」を記入し、次の(1)から(9)までは、避難器具の種別ごとに記入する。
- (1) 器具の検定、認定等の「型式番号」を記入する。
  - (2) 器具取付場所の「用途」、「建物構造」等を記入する。
  - (3) 器具取付場所の開口部の縦及び横の「大きさ」を記入する。
  - (4) 床面から開口部の下端までの「高さ」を記入する。
  - (5) 当該器具を使用するために必要となる「操作面積」を記入する。
  - (6) 当該器具の「取付位置」を記入する。（例：床、壁、窓枠等）
  - (7) 当該器具の「取付方法」（固定方法）を記入する。（例：埋込式ボルト、溶接等）
  - (8) 当該器具の取付部材（固定部材）の「設計荷重」を記入する。
  - (9) 当該器具の取付部材（固定部材）の「許容応力」を記入する。

#### ④その他について

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第14

## 誘導灯概要表

(棟別) (1) 棟)

②	防 火 対 象 物 規 模	構造階数				建築面積			用途				
		耐 準 そ の 他	火 耐 火 地 下	地上	階			m <sup>2</sup>					
③	種別					延べ面積			無窓階の有無				
								m <sup>2</sup>	有(	(階)	・無		
④	避難口 誘導灯	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階		
		用途											
⑤	通路 誘導灯	A級											
		B級	BH形										
⑥	電 源	C級											
		A級											
⑦	配 線	B級											
		B級	BL形										
⑧	階段通路誘導灯												
	客席誘導灯												
⑨	点灯方式		<input type="checkbox"/> 常時点灯 <input type="checkbox"/> 消灯方式										
	消灯条件		<input type="checkbox"/> 自動火災報知設備連動 <input type="checkbox"/> 照明器具連動 <input type="checkbox"/> 旋錠連動										
⑩	機能	<input type="checkbox"/> 点滅・誘導音機能 ( )											
		<input type="checkbox"/> 点滅機能のみ ( )											
		<input type="checkbox"/> 誘導音機能のみ ( )											
⑪	常用電源	AC V 専用・兼用 ( )											
	非常電源	<input type="checkbox"/> 蓄電池(内蔵型・別置型) <input type="checkbox"/> 自家発電設備 <input type="checkbox"/> 燃料電池設備											
⑫	施工方法	使用電線										太さ	
		常用電源路										mm mm <sup>2</sup>	
非常電源路											mm mm <sup>2</sup>		
設計、施工業者氏名													
備考													

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## ①棟別について

- ・概要表は棟別を原則とし、複数棟ある場合は、その棟ごとの「名称」を記入する（建物名称が決定していない場合は、仮称でも差し支えない。）。

## ②防火対象物規模について

- ・「構造」について、該当するものを□で囲む。

なお、主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。

- ・「階数」、「建築面積」及び「延べ面積」を記入する。

- ・「主たる用途」を記入する。（例：工場）

※ 令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）

- ・無窓階の「有無」について、該当する方を○で囲み、「有」の場合は該当する階を記入する。

## ③種別等について

- ・「用途」を階ごとに記入し、当該階に設置する誘導灯の「設置個数」を種類ごとに記入する。

## ④点灯方式等について

- ・「点灯方式」について、該当するものにチェックする。

- ・「消灯方式」について、誘導灯を消灯する場合は、消灯する場合の条件のうち、該当するものにチェックする。

## ⑤機能について

- ・点滅機能又は音声誘導機能を有する場合は、該当する機能をチェックする。

## ⑥電源について

### 【常用電源】

- ・「電圧」を記入し、「専用」又は「兼用」について、該当する方を□で囲む。

なお、兼用の場合は、その設備名を（ ）内に記入する。

### 【非常電源】

- ・該当するものにチェックする。

## ⑦配線について

- ・回路ごとに、「施工方法」、「使用電線」及び「使用電線の太さ」を記入する。

## ⑧設計、施工業者名について

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

## ⑨備考について

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第15

## 消防用水概要表

①	防 火 対 象 物 規 模	構造		階数		建築面積		敷地面積									
		耐火		地上階				m <sup>2</sup>									
		準耐火		地下階		延べ面積		棟数									
②	棟 別 概 要	棟別		1		2		3									
		構造															
		建築物の高さ		m		m		m									
		1. 2階の 床面積の合計		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>									
		延べ面積 (地階は除く)		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>									
		延焼のおそれのある 部分に該当する棟															
③	採水口の配管等	採水口の設置位置															
		車両進入状況		採水口まで進入可能な位置													
		採水口前面空地		m × m													
		採水口の型式		1. 吸管投入型 2. 吸管結合型													
		吸管投入口の大きさ及び数		直径 m ケ所													
		吸管結合金具の寸法数		町野式 口径 mm ケ所													
④	水 源	配管の材質、寸法		JIS 口径 mm													
		種類		1. 地下式 2. 半地下式 3. 据置式 4. その他( )													
		貯水槽		m <sup>3</sup> 専用・兼用( )													
⑤	実 揚 程	有効水量		m <sup>3</sup> ケ所													
		フート弁から採水口までの配管口径等		mm 長さ m													
		配管の摩擦損失水頭		単位													
⑥	加 圧 ボ ン プ	落差(水槽の下端から採水口まで垂直距離)		単位													
		電圧 起動装置 V		使用配線		操作方式		位置 地盤面からの高さ									
		電圧 起動表示灯 V		使用配線		灯の内径		mm									
⑦	別添加圧送水装置概要表参照																
	設計、施工業者氏名																
	備考																
⑧																	

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## ①防火対象物規模について

- ・「構造」について、該当するものを□で囲む。

※主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。

なお、令第 27 条第 2 項の規定により複数の建築物が一の建築物とみなされる場合は、代表となる棟について記載する。（(1)及び(2)までにおいて同じ。）

- (1) 「階数」、「建築面積」、「延べ面積」、「敷地面積」を記入する。
- (2) 消防用水の設置を要する「棟数」を記入する。

## ②棟別概要について

「前(2)」の棟の概要について、次の事項を記入する。

なお、複数棟ある場合は、棟ごとに記入すること。

- ・前①に準じて、「構造」を記入する。

- ・「高さ」及び「1 階及び 2 階の部分の床面積の合計」を記入する。

- ・地階部分を除いた建築物の「延べ面積」を記入する。

- ・令第 27 条第 2 項の規定により一の建築物とみなされる場合（延焼のおそれのある部分を有する場合）は、「○」を記入する。

## ③採水口の配管等について

採水口等の概要について、次の事項を記入する。

- ・採水口の「設置場所」を詳細に記入する。

- ・採水口から消防車両が進入可能な位置までの「距離」を記入する。

- ・採水口前面の操作空地（空間）の「広さ」を記入する。

- ・採水口の「型」について、該当する方を□で囲む。

- ・設置する吸管投入口の「大きさ」及び当該投入口の「設置個数」を記入する。

- ・吸管結合金具の「口径」及び当該結合金具の「設置個数」を記入する。

- ・配管を設ける場合は、配管の「材質」（J I S 番号）及び「口径」を記入する。

## ④水源について

- ・「種別」について、該当するものを□で囲む。

- ・貯水槽の「水量」を記入し、「専用」又は「兼用」について、該当する方を□で囲む。

なお、兼用の場合は、その設備名を（ ）内に記入する。

- ・常時水源として使用できる「有効水量」及び「設置個数」を記入する。

## ⑤実揚程について

- ・吸管結合金具を使用する場合は、フート弁から採水口までの配管の「口径」及びその「長さ」を記入し、当該部分の「摩擦損失水頭」及び「落差」（水槽の下端から採水口までの垂直距離）を記入する。

## ⑥加圧ポンプについて

- ・加圧ポンプを用いる場合は、「電圧」、「配線の種類」、「操作方式」、「地盤面（床面）からの高さ」及び「灯の内径」を記入する。

## ⑦設計、施工業者名について

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

## ⑧備考について

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第16

## 加圧送水装置概要表

①	加圧送水装置を用いる設備	消防用水			連結散水設備	連結送水管		
②	加圧送水装置の種類							
③	位 置			認定番号				
	ポンプ	型式 (種別)			原動機	型式		
		口 径	mm			電 流	A	
		揚 程	m			電 壓	V	
		吐 出 量	l/min			出 力	Kw	
項目		型 式 等		寸 法 容 量 等				
④	ポンプ呼水管槽	材質		長さ	たて	×よこ	×高さ (cm)	
		減水警報装置 方式			×	×	×	
		警報移報場所						
	フレキシブル管	公称水圧試験圧力	MPa	内径	mm	長さ	mm	
	性能試験用配管		方式	内径	mm			
	補給水管		方式	内径	mm			
	呼水管		内径	mm				
オーバーフロー管		内径	mm					
逃し管		内径	mm					
⑤	設置場所			種別	地下式・据置式			
	有効水量	m <sup>3</sup>			その他( )			
	補給方法	式			兼用設備	無・有( )		
	減水警報装置	方式			警報設置場所			
⑥	非常電源の種別	専用受電設備(高圧・低圧)・自家発電設備・蓄電池設備・燃料電池設備						
	非常電源の型式等	認定番号	非常電源容量		設置場所			
			KVA(AH)					
⑦	設計、施工業者氏名							
⑧	備考							

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

**①加圧送水装置を用いる設備について**

- ・加圧送水装置を設ける消防用設備等について、該当する設備を□で囲む。

**②加圧送水装置の種類について**

- ・当該装置の「種類」を記入する。

**③加圧送水装置について**

- ・「位置」について、当該装置を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・当該装置の「認定番号」を記入する。
- ・「ポンプ」及び「原動機」の「仕様」を記入する。

**④ポンプ附属設備について**

**【呼水槽】**

- ・「材質」、「容量」、減水警報装置の「方式」及び当該警報の「移報場所」を記載する。

**【フレキシブル管】**

- ・「水圧試験圧力」を記入する。
- ・「管の呼び径」及び「長さ」を記入する。

**【性能試験用配管】**

- ・「方式」（直読式又は差圧式）を記入する。
- ・「管の呼び径」を記入する

**【補給水管】**

- ・「方式」（自動式又は手動式）を記入する。
- ・管の呼び径を記入する。

**【呼水管、オーバーフロー管、逃し管】**

- ・管の呼び径を記入する。

**⑤水源について**

- ・水源を設置する「階」及び「室名」を記入する。（例：○階○○室）
- ・「有効水量」を記入する。
- ・「種別」について、該当するものを□で囲む。
- ・「補給方式」（自動式又は手動式）を記入する。
- ・水源の「専用」又は「兼用」について、該当する方を□で囲む。  
なお、兼用の場合は、その設備名を（ ）内に記入する。
- ・減水警報装置の「方式」及び当該装置の「設置場所」を記入する。

**⑥非常電源について**

- ・「種別」で、該当するものを□で囲む。
- ・「型式」、「認定番号」、「容量」及び「設置場所」を記入する。

**⑦設計、施工業者名について**

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

**⑧備考について**

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第17

## 連結散水設備概要表

(棟別) ① 棟)

② 防 火 対 象 物 概 要	構 造	階 数		建築面積 m <sup>2</sup>		(棟別) ① 棟)	
	耐 火 耐 火 そ の 他	地上 階	地下 階	延べ面積 m <sup>2</sup>			
		階別		地下1階	地下2階	地下3階	地下4階
設 置 状 況		床 面 積		m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>
③		送 水 区 域 数					
④ ヘ ッ ド を す る 部 分		1送水区域内で2以上防火区画		有・無	有・無	有・無	有・無
		散 水 ヘ ッ ド 個 数		個	個	個	個
⑤ ヘ ッ ド ・ 制 御 弁 等		階	用 途	床面積 m <sup>2</sup>	防火戸の種別・開口部面積 ヶ所 m <sup>2</sup>	内装材料	代替設備
⑥ 配 管 等		項 目	仕 様 項 目			仕 様	
		ヘッドの型式	開放型・閉鎖型			ヘッドの間隔 m × m	
		ヘッドの溶解温度	摂氏度			ヘッド水平警戒距離 半径 m	
		起動方式	手動・自動			開放弁の個数 ヶ所	
		起動装置	制御弁の個数				ヶ所
		自動警報装置	種別			最大警戒面積 m <sup>2</sup>	
		表示装置	排水弁位置				ヶ所
		最大圧力	MPa				
⑦ 全 場 程		配管	JIS	吸水管 主管 配水管 mm	JIS	水圧試験圧力 MPa	
		管継手	JIS	フランジ・ねじ込み・溶接 その他( )	JIS	水圧試験圧力 MPa	
		仕切弁	JIS		JIS	水圧試験圧力 MPa	
		逆止弁	JIS		JIS	水圧試験圧力 MPa	
⑧ 加 压 送 水 装 置		送水口	位置 双口型 個,	埋込・スタンド式, 口径 mm, 高さ m			
⑨ 備 考		別添加圧送水装置概要表参照					
		ヘッドの設計圧力換算水頭 単位	m				
		配管の摩擦損失水頭 単位	m				
⑩ 設計、施工業者氏名							
⑪ 備考							

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## ①棟別について

- ・概要表は棟別を原則とし、複数棟ある場合は、その棟ごとの「名称」を記入する（建物名称が決定していない場合は、仮称でも差し支えない。）。

## ②防火対象物概要について

- ・「構造」について、該当するものを□で囲む。

なお、主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。

- ・「階数」、「建築面積」及び「延べ面積」を記入する。
- ・「主たる用途」を記入する。（例：工場）

※ 令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）

## ③設置状況について

- ・連結散水設備が設置される階の「床面積」、「放水区域数」、「送水区域内の防火区画の有無」及び「散水ヘッドの設置個数」を記入する。

## ④ヘッドを省略する部分について

- ・規則第30条の2の規定等により散水ヘッドを省略する部分の「階」、「用途」、「床面積」、「防火戸の設置個数」、「開口部の面積」及び「内装仕上げの材料」（不燃材料、準不燃材料、難燃材料又はその他）を記入し、代替設備がある場合は、設備名を記入する。

## ⑤ヘッド・制御弁等について

- ・散水ヘッドの「種類」（閉鎖型又は開放型）について、該当する方を□で囲む。
- ・散水ヘッドの「設置間隔」を記入する。
- ・閉鎖型ヘッドの場合、ヘッドの「溶解温度」を記入する。
- ・散水ヘッドの「水平警戒距離」を記入する。
- ・一斉開放弁を設ける場合は、その「設置個数」を記入する。
- ・制御弁を設ける場合は、その「設置個数」を記入する。
- ・排水弁の「設置場所」及び「設置個数」を記入する。

## ⑥配管等について

- ・配管の「材質」（JIS番号）、「口径」（吸水管・主管・配水管）及び「水圧試験圧力」を記入する。
- ・管継手の「材質」（JIS番号）及び「水圧試験圧力」を記入し、管継手の「種類」について、該当するものを□で囲む。
- ・バルブ類の「水圧試験圧力」を記入する。
- ・送水口の「設置場所」、「設置個数」、「口径」及び「地盤面からの高さ」を記入し、「埋込」又は「 standards式」について、該当する方を□で囲む。

## ⑦全揚程について

- ・「ヘッドの設計圧力換算水頭」及び「配管の摩擦損失水頭」について、計算結果を記入する。

## ⑧設計、施工業者名について

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

## ⑨備考について

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第18

## 連結送水管・非常コンセント設備概要表

(棟別) ① 棟)

②	防 火 対 象 物 規 模	構 造	階 数	建築面積 m <sup>2</sup>				用途					
		耐 準 そ の 他	火 耐 火 他	地上 階	地下 階	延べ面積 m <sup>2</sup>							
③	設 置 状 況	階 数	階	階	階	階	階	階	階	階	階		
		放 水 口	個 数	個	個	個	個	個	個	個	個	個	
			位 置 床面より	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m
④	格 納 箱	放水口格納箱	材質	板厚 mm	寸法(高さ) (幅) m×m×m						(奥行)		
		放水用具等	材質	板厚 mm	寸法(高さ) (幅) m×m×m						(奥行)		
			ホースの材質 m	本	噴霧切替ノズル						本		
⑤	配 管 ・ ホ ー ス 等	最大圧力	MPa										
		項目	材質等	口径等			その他						
		主管	JIS	口径 mm	JIS 水圧試験圧力 MPa								
		立主管 ヶ所	湿式	乾式	高架水槽 専用・兼用( ) 設備								
		放水口	斜線	口径 mm	個数 单口形 個・双口形 個								
		送水口	斜線	口径 mm	設置場所～ スタンド式・埋込式 GLからの高さ								
		管継手	JIS	法兰ジ・ねじこみ・溶接 その他( )	JIS 水圧試験圧力 MPa								
		仕切弁	JIS				JIS 水圧試験圧力 MPa						
		逆止弁	JIS				JIS 水圧試験圧力 MPa						
		表示灯	電圧 V	配線	設置位置								
	電流 mA	灯の内径 mm											
加压送水装置		別添加圧送水装置概要表参照											
⑥ ⑦	非常 コン セ ント 設備	階別 設置個数	11階 個	12階 個	13階 個	14階 個	15階 個	16階 個	17階 個	18階 個	19階 個	20階 個	
		電圧・電流	单相交流 V	A	回路数	回路	規格	JIS-					
		保護箱	寸法 m×m	表示灯	電圧 V	設置位置							
			材質 板厚 mm		電流 mA	灯の内径 mm							
		配線及び 施工方法											
		非常電源	専用受電設備(高圧・低圧)・自家発電設備・蓄電池設備・燃料電池設備										
		設計、施工業者氏名											
		備考											

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

## ①棟別について

- ・概要表は棟別を原則とし、複数棟ある場合は、その棟ごとの「名称」を記入する（建物名称が決定していない場合は、仮称でも差し支えない。）。

## ②防火対象物規模について

- ・「構造」について、該当するものを□で囲む。

なお、主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。

- ・「階数」、「建築面積」及び「延べ面積」を記入する。

- ・届出に係る防火対象物の「主たる用途」を記入する。（例：工場）

※令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）

## ③設置状況について

- ・放水口を設置する「階」、「設置個数」及び「床面から放水口までの高さ」を階ごとに記入する。

## ④格納箱について

- ・放水口格納箱の「材質」、「板厚」及び「寸法」を記入する。

- ・放水用具等格納箱の「材質」、「板厚」及び「寸法」を記入する。

格納するホースの「長さ」及び「本数」並びに噴霧切替ノズルの「本数」を記入する。

## ⑤配管・ホース等について

### 【最大圧力】

- ・規則第31条第5号□に規定する「設計送水圧力」を記入する。

### 【主管】

- ・配管の「材質」（J I S番号）、「口径」及び「水圧試験圧力」を記入する。

立上り主管の「個数」を記入し、配管の「種別」（湿式又は乾式）について、該当する方を□で囲む。

湿式の場合は、高架水槽の「専用」又は「兼用」について、該当する方を□で囲み、兼用の場合は、その設備名を（ ）内に記入する。

### 【放水口】

- ・放水口の「口径」及び「設置個数」を記入する。

### 【送水口】

・送水口の「口径」、「設置個数」及び「地盤面からの高さ」を記入し、「埋込式」又は「スタンド式」について、該当する方を□で囲む。

### 【管継手】

・管継手の「材質」（J I S番号）及び「水圧試験圧力」を記入し、管継手の「種類」について、該当するものを□で囲む。

### 【仕切弁、逆止弁】

- ・バルブ類の「材質」（J I S番号）及び「水圧試験圧力」を記入する。

### 【表示灯】

・送水口の上部に設ける表示灯の「電圧」、「電流」、「使用電線」、「内径」及び「設置場所」を記入する。

## ⑥設計、施工業者名について

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

## ⑦備考について

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第18

## 連結送水管・非常コンセント設備概要表

(棟別 ① 棟)

②	防 火 対 象 物 規 模		構 造		階 数		建築面積 m <sup>2</sup>		用途			
			耐 準	火 災	地 上	階						
設 置 状 況	階 数		階	階	階	階	階	階	階	階	階	
	放 水 口	個 数	個	個	個	個	個	個	個	個	個	
格 納 箱	放水口格納箱		材質	板厚 mm	寸法(高さ) m × m × m		(幅)(奥行)					
	放水用具等		材質	板厚 mm	寸法(高さ) m × m × m		(幅)(奥行)					
			ホースの材質 m	本	噴霧切替ノズル		本					
配 管 ・ ホ ー ス 等	最 大 壓 力		MPa									
	項 目		材 質 等	口 径 等			そ の 他					
	主 管		JIS	口径 mm			JIS 水圧試験圧力 MPa					
			立主管 ヶ所	湿式 乾式			高架水槽 専用・兼用( )設備					
	放 水 口		口径 mm			個数	单口形	個・双口形	個			
	送 水 口		口径 mm			設置場所～ スタンド式・埋込式 GLからの高さ						
	管 繼 手		JIS	法兰ジ・ねじこみ・溶接 その他( )			JIS 水圧試験圧力 MPa					
	仕 切 弁		JIS				JIS 水圧試験圧力 MPa					
	逆 止 弁		JIS				JIS 水圧試験圧力 MPa					
	表 示 灯		電圧 V	配 線			設置位置					
		電流 mA	灯の内径 mm									
加 壓 送 水 装 置		別添加圧送水装置概要表参照										
③ 非常 コン セント 設備	階 別 設 置 個 数		1 1 階	1 2 階	1 3 階	1 4 階	1 5 階	1 6 階	1 7 階	1 8 階	1 9 階	2 0 階
			個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
	電 壓 ・ 電 流		单相交流 V A			回 路 数	回 路	規 格	JIS-			
	保 護 箱		寸法 m × m			表 示 灯	電 壓 V		設置位置			
			材質 板厚 mm				電 流 mA		灯の内径 mm			
	配 線 及 び 施 工 方 法											
非 常 電 源		専用受電設備(高圧・低圧)・自家発電設備・蓄電池設備・燃料電池設備										
設計、施工業者氏名												
備考												
④												
⑤												

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

#### ①棟別について

- ・概要表は棟別を原則とし、複数棟ある場合は、その棟ごとの「名称」を記入する（建物名称が決定していない場合は、仮称でも差し支えない。）。

#### ②防火対象物規模について

- ・「構造」について、該当するものを□で囲む。  
なお、主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。
- ・「階数」、「建築面積」及び「延べ面積」を記入する。
- ・届出に係る防火対象物の「主たる用途」を記入する。（例：工場）  
※令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）

#### ③非常コンセント設備について

- ・非常コンセントを設置する「階」及び「設置個数」を階ごとに記入する。
- ・「電圧」、「電流」、「全回路数」及び非常コンセントの規格（JIS番号）を記入する。
- ・「保護箱」の「寸法」、「材質」及び「板厚」を記入する。
- ・「表示灯」の「電圧」、「電流」、「設置場所」及び「灯の内径」を記入する。
- ・「配線及び施工方法」について、回路の「使用電線」及び「施工方法」を記入する。
- ・「非常電源」について、該当するものを□で囲む。

#### ④設計、施工業者名について

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

#### ⑤備考について

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第19

## 無線通信補助設備概要表

①	防火対象物規模 使 用 区 分	用 途	階 数 階	延べ面積	m <sup>2</sup>
②	設 備 方 式	専用・共用(警察用・防災管理用・その他( ))			
③	漏洩同軸ケーブル方法・及び空中線方式	漏洩同軸ケーブル 及び空中線方式	・空中線方式		
④	使用周波数帯域	MHz			
⑤	無線機接続端子	設 置 場 所 許容入力(設計値)	w(連続) 保護箱(cm)	設 置 個 数 ( ) × ( ) × ( )	個
⑥	増 幅 器	設 置 の 有 無	型 名	利 得	設 置 場 所
⑦	混 合 分 配 器			dB	
⑧	混 合 器	型 名	入 力 端 子 数	挿 入 損 失	設 置 場 所
⑨	分 配 器			dB	
⑩	分 波 器	型 名	入 力 端 子 数	挿 入 損 失	設 置 場 所
⑪	空 中 線	型 名	設 置 個 数	挿 入 損 失	設 置 場 所
⑫	漏洩同軸ケーブル	電圧定在波比 ( )MHzにて( )	dB		
⑬	同 軸 ケ ー ブ ル	型 名	設 置 個 数	利 得	耐熱措置方法
⑭	製 造 者 名	結 合 損 失 dB	伝 送 損 失 dB/km	使 用 長 m	
⑮		漏洩同軸ケーブル			
⑯		空 中 線			
⑰		分 配 器 等			
⑱		増 幅 器			
⑲	設 計 ・ 施 工 業 者 氏 名	TEL			
⑳	備 考				

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

**①防火対象物規模等について**

- ・「主たる用途」を記入する。（例：工場）  
※令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）
- ・「階数」及び「延べ面積」を記入する。
- ・「使用状況」について、該当するものを□で囲む。  
なお、共用の場合は、その「使用種別」について、該当するものを□で囲む。

**②設備方式について**

- ・「設備方式」について、該当するものを□で囲む。

**③使用周波数帯域について**

- ・「使用周波数帯域」を記入する。

**④無線機接続端子について**

- ・無線機接続端子の「設置場所」（階、方角等）、「設置個数」、「許容入力」（連続）及び「保護箱の寸法」を記入する

**⑤増幅器について**

- ・増幅器の設置の「有無」、「型名」、「利得」及び「設置場所」（階、室名等）を記入する。

**⑥混合分配器及び混合器について**

- ・各機器の「型名」、「入力端子数」、「挿入損失」及び「設置場所」（階、室名等）を記入する。

**⑦分配器及び分波器について**

- ・各機器の「型名」、「設置個数」、「挿入損失」及び「設置場所」（階、室名等）を記入する。

**⑧空中線について**

- ・空中線の「型名」、「設置個数」、「利得」及び「電圧定在波比」を記入する。

**⑨漏洩同軸ケーブルについて**

- ・「型名」、「結合損失」、「伝送損失」、「使用長」及び「耐熱措置方法」を記入する。

**⑩同軸ケーブルについて**

- ・「型名」、「伝送損失」、「使用長」及び「耐熱措置方法」を記入する。

**⑪製造者名について**

- ・各機器ごとに、「製造者名」を記入する。

**⑫設計、施工業者名について**

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

**⑬備考について**

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第20

## 排煙設備概要表

(棟別) (1) 棟)

②	防 火 対 象 物 規 模	構 造 階 数			建築面積 m <sup>2</sup>	用途 収容人員 名(世帯)
		耐 津 そ の 他	火 耐 火 地 下 階 階			
		火 耐 火 地 下 階 階	延べ面積 m <sup>2</sup>			
項目						
③	排 煙 機	設置位置 階室				
		機械室の構造	壁	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他( )
			天井	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他( )
			開口部	<input type="checkbox"/> 特定防火設備	<input type="checkbox"/> 防火設備	<input type="checkbox"/> 不燃
排出量 m <sup>3</sup> /min						
④	給 氣 機	設置位置 階室				
		機械室の構造	壁	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他( )
			天井	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他( )
			開口部	<input type="checkbox"/> 特定防火設備	<input type="checkbox"/> 防火設備	<input type="checkbox"/> 不燃
給気量 m <sup>3</sup> /min						
⑤	排 煙 口 等	大きさ	m×m			
			<input type="checkbox"/> 天井面	<input type="checkbox"/> 壁面	<input type="checkbox"/> その他( )	
⑥	風道口	防煙区画の構造等			m <sup>2</sup>	
		防煙区画の構造	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他	
⑦	排煙出口	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他( )		
		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有( )			
⑧	給 氣 口	<input type="checkbox"/> 屋上	<input type="checkbox"/> その他( )			
		<input type="checkbox"/> 自然流入	<input type="checkbox"/> 給氣機	<input type="checkbox"/> その他( )		
⑨	電 源	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他( )		
		常用電源 AC V	<input type="checkbox"/> 非常電源専用受電設備	<input type="checkbox"/> 自家発電設備	<input type="checkbox"/> 蓄電池設備	<input type="checkbox"/> 燃料電池設備
設計、施工業者氏名						
⑩						
⑪	備考					

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

#### ①棟別について

- ・概要表は棟別を原則とし、複数棟ある場合は、その棟ごとの「名称」を記入する（建物名称が決定していない場合は、仮称でも差し支えない。）。

#### ②防火対象物規模について

- ・「構造」について、該当するものを□で囲む。  
なお、主要構造部が準耐火構造と同等の準耐火性能を有する建築物（□準耐火建築物）は、準耐火を選択すること。
- ・「階数」、「建築面積」及び「延べ面積」を記入する。
- ・「主たる用途」を記入する。（例：工場）  
※令別表第1の該当する用途での記載でも差し支えない。（例：工場の場合は(12)項イ）
- ・規則第1条の3の規定により算出した「収容人員」を記入する。

#### ③排煙機及び給気機について

- ・設置する「階」及び「室名」を記入する。
- ・設置される室の壁及び天井並びに開口部の防火性能について、該当するものにチェックする。
- ・「排出量」を記入する。

#### ④起動装置について

- ・「種類」について、該当するものにチェックする。

#### ⑤排煙口等について

- ・「大きさ」を記入する。
- ・「設置位置」について、該当するものにチェックする。
- ・「防煙区画面積（最大）」を記入する。
- ・「防煙区画の構造」について、該当するものにチェックする。

#### ⑥風道口について

- ・「風道構造」及び「区画ダンパー」について、該当するものにチェックする。

#### ⑦排煙出口について

- ・排出口を設ける「場所」について、該当するものにチェックする。

#### ⑧給気口について

- ・「給気方法」及び「風道構造」について、該当するものにチェックする。

#### ⑨電源について

- ・「常用電源」の電圧を記入し、「非常電源」について、該当するものにチェックする。

#### ⑩設計、施工業者名について

- ・「設計及び施工業者名」を記入する。

#### ⑪備考について

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 別記様式第21

パッケージ型消火設備の概要表

①	種 別	I型×( )台・II型×( )台											
②	認 定 番 号	号		型式記号									
③	消火薬剤貯蔵容器等	加圧・蓄圧(MPa)	材質			内容積	L×本						
④	消火薬剤	種 別	型式番号										
		貯 藏 量 (1台当たり)	L×本= L										
⑤	加 圧 用 ガ ス	ガスの種別 充 填 量	窒素・二酸化炭素 (1台当たり) m <sup>3</sup> ・L・kg × 本			充填圧力 MPa							
		材 質				ノズル切替有無	有・無						
⑥	ホース等	寸 法	長さ m (I型・II型)										
		ホース収納方式	リール収納方式・ホース架収納方式										
⑦	設 置 場 所	設 置 階											
		台 数											
⑧	電 源	常用電源回路	单相・三相 AC V	電灯回路・動力回路									
			DC V AH	充電方式: トリクル・浮動 使用別: 専用・共同									
		非常電源回路	種別 DC V AH	充電方式: トリクル・浮動 使用別: 専用・共同									
⑨	配 線	表示灯回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他( )										
		非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管埋設・その他( )										
⑩	放 射 能	放 射 率	L/min										
		放 射 距 離	m										
		全量放射時間	秒										
⑪	備 考												

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。

**①種別について**

- ・種別ごとに、( ) 内に「設置台数」を記入する。

**②認定番号について**

- ・「認定番号」及び製造会社の機器の「型式記号」を記入する。

**③消火薬剤貯蔵容器について**

- ・「加圧式」又は「蓄圧式」で、該当する方を□で囲み、蓄圧式の場合は蓄圧圧力を記入する。

- ・貯蔵容器の「材質」を記入する。

- ・貯蔵容器の1本当たりの「内容積」及び「設置本数」を記入する。

**④消火薬剤について**

- ・消火薬剤の「種別」を記入する。(例: 第三種浸潤剤等入り水等)

- ・消火薬剤の「型式番号」を記入する。

- ・パッケージ型消火設備1台当たりの「消火薬剤貯蔵量」、「本数」及び「合計貯蔵量」を記入する。

**⑤加圧用ガスについて**

- ・加圧用ガスの「種類」について、該当する方を□で囲む。

- ・加圧用ガスの「単位」について、該当するものを○で囲み、1台当たりの「充填量」及び「設置本数」を記入する。

- ・20°Cにおける「充填圧力」を記入する。

**⑥ホース等について**

- ・ホースの「材質」を記入する。

- ・ノズル切替の「有無」について、該当する方を○で囲む。

- ・ホースの「長さ」を記入し、「I型」又は「II型」で、該当する方を□で囲む。

- ・ホースの「収納方式」について、該当する方を□で囲む。

**⑦設置場所について**

- ・パッケージ型消火設備を設置する「階」及び「設置個数」を階ごとに記入する。

**⑧電源について**

**【常用電源】**

A C ・ D C の区分により、該当するものを選択及び記入する。

- ・ A C の場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。

- ・ D C の場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

**⑨配線について**

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

**⑩放射性能について**

- ・「放射率」を記入する。

- ・棒状放射の場合の「放射距離」を記入する。

- ・20°Cにおける消火薬剤の「全量放射時間」を記入する。

**⑪備考について**

- ・特記事項等がある場合は記入する。

別記様式第22

パッケージ型自動消火設備の概要表

①	認定番号・設置台数		認定型式番号		号×台	型式記号								
②	消火薬剤貯蔵容器等		加圧・蓄圧 ( MPa)		材質		内容積	L×本						
③	消火薬剤		種別			型式番号								
	薬剤量		容器別数量		L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数	本 本 本 本 本 本	L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 =総量	本 本 本 本 本 L						
④	加圧用ガス		ガスの種別	窒素・二酸化炭素										
	充填量		(1台当たり)	m <sup>3</sup> ·L·kg×	本	充填圧力	MPa							
⑤	本体設置状況		薬剤貯蔵容器等			接地端子	有・無							
⑥	感知部	感知器の種別	式	型( )	型式番号:感第	号×種	個							
			式	型( )	型式番号:感第	号×種	個							
⑦	検出方式		式	型( )	型式番号:感第	号×種	個							
			式	型( )	型式番号:感第	号×種	個							
⑧	音響装置		音声・サイレン・音声+サイレン・ブザー・その他( )			連動有無	有(無)							
⑨	手動起動方式													
⑩	放出導管		主管	材質:	呼び方:	分歧管	材質:							
⑪	最大長さ		m											
⑫	放出口		材質:		放射量:	L/min								
⑬	補助散水栓		屋内消火栓(1号・2号・易操作1号) × 台		I型 × 台	II型 × 台								
⑭	電源	常用電源回路	単相・三相 AC V 電灯回路・動力回路											
			DC V AH	充電方式:トリクル・浮動	使用別:専用・共同									
⑮	配線	非常電源回路	種別( DC V AH )	充電方式:トリクル・浮動	使用別:専用・共同									
⑯		常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )											
		非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他( )											
⑰		警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他( )											
		その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )											
⑱	階	階面積	主な用途	同時放射区域	最大同時放射区域面積	放出口数	備考							
	階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個								
	階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個								
	階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個								
	階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個								
	階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個								
	階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個								
	階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個								
	階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個								
⑲	合計		区域		個									
	備考													

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。

**①認定番号・設置台数について**

- ・「認定番号」、「設置台数」及び製造会社の機器の「型式記号」を記入する。

**②消火薬剤貯蔵容器について**

- ・「加圧式」又は「蓄圧式」で、該当する方を□で囲み、蓄圧式の場合は蓄圧圧力を記入する。

・貯蔵容器の「材質」を記入する。

・貯蔵容器の1本当たりの「内容積」及び「設置本数」を記入する。

**③消火薬剤について**

- ・「種別」を記入する。（例：第三種浸潤剤等入り水等）

- ・「型式番号」を記入する。

- ・パッケージ型自動消火設備1台当たりの「消火薬剤貯蔵量」、「本数」及び「合計貯蔵量」を記入する。

**④加圧用ガスについて**

- ・「種類」について、該当する方を□で囲む。

- ・「単位」について、該当するものを○で囲み、1台当たりの「充填量」及び「設置本数」を記入する。

- ・20°Cにおける「充填圧力」を記入する。

**⑤本体設置状況について**

- ・薬剤貯蔵容器等の「設置場所」及び「設置台数」を記入する。

- ・接地端子の「有無」について、該当する方を○で囲む。

**⑥感知部について**

- ・「種別」、「型式番号」及び「設置個数」を記入する。

- ・「検出方式」を記入する。

**⑦音響装置について**

- ・音響装置の種類及び連動の「有無」について、該当するものを□で囲み、連動が「有」の場合は、（ ）内に連動する設備名を記入する。

**⑧手動起動方式について**

- ・手動起動方式の「有無」を記入し、「有」の場合は方式を記入する。

**⑨放出導管について**

- ・主管の「材質」、「呼び方」及び「最大許容長さ」並びに分岐管の「材質」を記入する。

**⑩放出口について**

- ・「材質」及び「放射量」を記入する。

**⑪補助散水栓について**

- ・設備の種類ごとに、当該設備の「設置台数」を記入する。

なお、屋内消火栓の場合は、該当する種類を□で囲む。

**⑫電源について**

**【常用電源】**

- ・AC・DCの区分により、該当するものを選択及び記入する。

ACの場合は、「電圧」を記入し、「電源回路」について、該当するものを□で囲む。

DCの場合は、「電圧」及び「容量」を記入し、「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

**【非常電源】**

- ・非常電源の種別を記入し、「電圧」及び「容量」を記入する。

- ・「充電方式」及び「使用別」について、該当するものを□で囲む。

**⑬配線について**

- ・回路ごとの「施工方法等」について、該当するものを□で囲む。

**⑭階等について**

- ・階の「床面積」、「主たる用途」、「同時放射区域数」、「最大同時放射区域面積」及び「放出口数」を記入し、同時放射区域数及び放出口数については、「合計数」を記入する。

**⑮備考について**

- ・特記事項等がある場合は記入する。

## 概要表「別記様式第 1」から「別記様式第 22」まで

別記様式第1

## 防火対象物 製造所等 の概要表

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
2 消防用設備等の設置に係る階について、各階ごとに記入すること。

別記様式第2

屋内消火栓設備・屋外消火栓設備  
水噴霧消火設備・泡消火設備 の概要表

水 源	専用・兼用	種 別	地下ピット・床置き・その他 ( )	有効水量 (当該設備用)	m <sup>3</sup>			
加压送水装置	ポンプ方式 ユニット型	ポンプ、電動機	専用・兼用	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力				
		電圧 V	φ × L/min ×	m × kw				
		呼 水 装 置	有 ・ 無	有効容量 L	減水警報の表示場所			
	起動用圧力タンク	有 ・ 無	容 量	L	ポンプ設置場所			
高架水槽方式	有効落差 m	圧力水槽方式	加压压力	MPa	内容積 m <sup>3</sup>			
屋内消火栓	1号 個	2号 個	易操作性 1号 個	合 計	個			
屋外消火栓	個	ホース	長さ m	本 表示灯	専用 ・ 兼用			
噴霧ヘッド	標準放射量 L/min	・ 標準放射圧力 MPa	・ 放射角度 °					
泡放出口	フォームヘッド	個	・ フォームウォータースプリンクラーヘッド	個				
	高発泡用泡放出口	個	・ 泡ノズル 個	・ その他 ( )	個			
泡消火設備の方式	固定式 (全域・局所)	・ 移動式	高発泡・低発泡	一齐開放弁	A 個			
泡消火	種別 たん白泡・合成界面活性剤・水成膜泡	貯蔵量 L	希釀容量濃度 %					
薬 剤	混合方式 差圧混合方式	・ 管路混合方式	・ 圧入混合方式	・ ポンプ混合方式	・ その他 ( )			
放 水 (出・射) 区 域	区域数	最大 放水 (出・射) 面積 m <sup>2</sup>	放水 (出・射) 量 L/min	放出体積 m <sup>3</sup>				
	区域	最小 放水 (出・射) 面積 m <sup>2</sup>	放水 (出・射) 量 L/min	放出体積 m <sup>3</sup>				
起動装置	ポンプ起動方式	自火報発信機・専用スイッチ・起動用水圧開閉装置・流水検知装置・その他						
	起動感知方式	スプリンクラーヘッド	・ 感知器	・ その他 ( )	手動式開放弁			
自動警報装置	流水検知装置 A 個	・ 壓力検知装置 個	・ その他					
配管	立上がり管口径 A	材質	専用・兼用 ( )		設備)			
止水弁		逆止弁	その他 ( )					
ブリ ス ポン タ ン タ ン ポン 電 源	ポンプ、電動機	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		補助水槽				
		φ × L/min ×	m × kw	m <sup>3</sup>				
		φ × L/min ×	m × kw	m <sup>3</sup>				
電 源	常用電源	単相	・ 三相 AC V	電灯回路	・ 動力回路			
		DC	V AH	充電方式	トリクル	・ 浮動	使用別	専用・共用
	非常電源	自家発電設備	単相	・ 三相 AC	・ DC V	kVA	使用別	専用・共用
		蓄電池設備	DC V AH	充電方式	トリクル	・ 浮動	使用別	専用・共用
配 線	非常電源専用受電設備	単相	・ 三相 AC V					
	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設	・ その他 ( )					
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設	・ その他 ( )					
	警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設	・ その他 ( )					
その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設	・ その他 ( )						
そ の 他								

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

別記様式第3

## スプリンクラー設備の概要表

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で用むこと。

別記様式第4

不活性ガス消火設備・ハロゲン化物消火設備  
粉末消火設備 の概要表

放出方式	全域放出方式・局所放出方式・移動式				制御盤設置位置				
貯蔵容器等	蓄圧(高压式・低压式・その他( ))・加圧								
起動方式	手動電気式・手動ガス式・自動式								
音響警報	音声・サイレン・音声+サイレン・ブザー・その他( )								
放出表示灯	設置個数	箇所	回転灯等	設置個数	箇所	赤色表示灯	専用・兼用		
消火剤	種別				設置場所				
	容器別数量	kg × 容器本数			本				
加圧用ガス	kg × 容器本数				本 = 総数量	kg			
	窒素ガス・二酸化炭素	数量			m <sup>3</sup> ・L・kg	容器本数	本		
配管	管								
	弁類	選択弁・放出弁・減圧弁・閉止弁・その他( )							
放出区域	区域数	最大	放出面積	m <sup>2</sup>	放出率	kg/s	放出体積	m <sup>3</sup>	
	区域	最小	放出面積	m <sup>2</sup>	放出率	kg/s	放出体積	m <sup>3</sup>	
移動式消火設備の数		箇所							
電源	常用電源	単相・三相	AC V	電灯回路	・動力回路				
		DC V	AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別	専用・共用		
配線	非常電源	自家発電設備	単相・三相	AC・DC V	kVA	使用別	専用・共用		
		蓄電池設備	DC V AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別	専用・共用		
配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他( )							
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管埋設・その他( )							
配線	警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管埋設・その他( )							
	その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他( )							
	放出区域名	階	面積	体積	換気口	換気装置	排出措置	消火剤量	ヘッド数
1			m <sup>2</sup>	m <sup>3</sup>	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
2			m <sup>2</sup>	m <sup>3</sup>	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
3			m <sup>2</sup>	m <sup>3</sup>	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
4			m <sup>2</sup>	m <sup>3</sup>	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
5			m <sup>2</sup>	m <sup>3</sup>	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
6			m <sup>2</sup>	m <sup>3</sup>	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
7			m <sup>2</sup>	m <sup>3</sup>	有(閉)・無	有(停)・無	機械・自然	Kg	個
その他									

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

## 別記様式第5

## 動力消防ポンプ設備概要表

(棟別)

(棟)

防 火 対 象 物 規 模	構 造	階 数	建築面積 $m^2$	用途	
	耐 火 準 耐 火 そ の 他	地上 階 地下 階	延べ面積 $m^2$	1.2階の床面積の合計	
				$m^2$	
項目		名称・材質・寸法等			
ポンプ別		消防ポンプ自動車、可搬消防ポンプ			
ポンプ	型式				
	級別	級			
	圧力	MPa	放水量	$\ell/min$	
	設置位置				
ホース		材質	内径 $mm$	長さ $m$	本数 本
筒先		材質	筒先口径 $mm$		本数 本
水源	種類	地下式・半地下式・据置式・その他 ( )			
	有効水量	$m^3$	$m^3$	$m^3$	$m^3$
	設置個数	個			
設計、施工業者氏名					
備考					

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

## 別記様式第6

## 自動火災報知設備の概要表

(その1)

	機種		蓄積	自動	遠隔	種別	個数
	式型( )						
感	型式番号	感第号	製造会社名				
	式型( )						
	型式番号	感第号	製造会社名				
	式型( )						
	型式番号	感第号	製造会社名				
	式型( )						
知	型式番号	感第号	製造会社名				
	式型( )						
	型式番号	感第号	製造会社名				
	式型( )						
器	型式番号	感第号	製造会社名				
	式型( )						
	型式番号	感第号	製造会社名				
	式型( )						
発信機	屋内型	型級	個	型式番号	発第号	製造会社名	
	屋外型	型級	個	型式番号	発第号	製造会社名	
表示灯	V個						
中	種別		回線数	電源供給方式			設置台数
	自動・遠隔・アナログ・その他(型式番号 中第号)			専用(予備電源 V AH)・受信機・その他( )			
	自動・遠隔・アナログ・その他(型式番号 中第号)			専用(予備電源 V AH)・受信機・その他( )			
	自動・遠隔・アナログ・その他(型式番号 中第号)			専用(予備電源 V AH)・受信機・その他( )			
	自動・遠隔・アナログ・その他(型式番号 中第号)			専用(予備電源 V AH)・受信機・その他( )			
	自動・遠隔・アナログ・その他(型式番号 中第号)			専用(予備電源 V AH)・受信機・その他( )			
	自動・遠隔・アナログ・その他(型式番号 中第号)			専用(予備電源 V AH)・受信機・その他( )			
	自動・遠隔・アナログ・その他(型式番号 中第号)			専用(予備電源 V AH)・受信機・その他( )			
	自動・遠隔・アナログ・その他(型式番号 中第号)			専用(予備電源 V AH)・受信機・その他( )			
	自動・遠隔・アナログ・その他(型式番号 中第号)			専用(予備電源 V AH)・受信機・その他( )			
繼	製造会社名						

## 別記様式第6

(その2)

受 信 機	蓄積式・二信号式・アナログ式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・その他( )								
	P・GP型 級 / 回線		R・GR型	自火報点数	点	その他( )	点数	点	
	予備電源 (DC V AH)		設置場所	階 室					
	型式番号 受第 号		製造会社名						
表 示 器	/ 回線 台 自火報点数 点 その他点数 点 予備点数 点								
	/ 回線 台 自火報点数 点 その他点数 点 予備点数 点								
電 源	常用電源		単相・三相 AC V 非常電源専用受電設備回路・電灯回路・動力回路						
			DC V AH 充電方式(トリクル・浮動) 使用別(専用・共用( ))						
音 響 装 置	非常電源		非常電源専用受電設備 単相・三相 AC V						
			蓄電池設備 DC V AH 充電方式(トリクル・浮動) 使用別(専用・共用( ))						
配 線	地区音響装置		ベル・サイレン・電子ブザー・音声合成・その他( )						
			鐘径 mm	定格DC	V	mA	個		
			型式番号(号)		製造会社名				
			型式番号(号) 認定番号(号) 製造会社名						
音 声 切 替 裝 置	音声切替装置		ベル・サイレン・電子ブザー・スピーカー・その他( )						
			鐘径 mm	定格DC	V	mA	個	dB	
			型式番号(号)		DC V	製造会社名			
			常用電源	単相 AC	V	非常電源専用受電設備回路・電灯回路			
非常電源	蓄電池設備	DC V AH	充電方式(トリクル・浮動)						
関連設備		ケーブル露出・電線管露出・電線管埋設・その他( )							
		耐火電線・電線管露出・電線管埋設・その他( )							
工事者区分		耐熱電線・電線管露出・電線管埋設・その他( )							
		IV電線・ケーブル露出・電線管露出・電線管埋設・その他( )							
		消防設備( )・火災通報装置・誘導灯信号装置							
		非常警報設備・放送設備・その他( )							
その 他									

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。  
 3 感知器記入欄の( )内は、その機能又は性能を記入すること。  
 4 関連設備の消防設備( )内は、その設備等の種類を記入すること。

## 別記様式第7

ガス漏れ火災警報設備の概要表

検知器	検知対象ガス		空気より軽い都市ガス		空気より重い都市ガス		その他もの							
	個	数	個	個	個	個	個	個						
中継器	回線 個			電源 専用方法 受信機供給方法 その他の方法			予備電源 V	AH						
受信機	区分	型		回線数	/ 回線									
	附属装置				附属回路									
	予備電源	V AH		設置場所	階									
電源	常用電源		単相・三相 AC V 電灯回路・動力回路											
			DC V AH	充電方法	トリクル・浮動	使用別	専用	共用						
	非常電源		蓄電池設備 DC V AH	充電方法	トリクル・浮動	使用別	専用	共用						
			自家発電設備	インバーター出力	VA									
警報装置	音声警報装置		增幅器出力 定格 W	スピーカー個数 個	非常用放送設備と兼用 有・無									
	ガス漏れ表示灯		中継器附属のもの			その他もの								
			個			個								
	検知区域警報装置		検知器附属のもの			その他もの								
			個			個								
配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他( )												
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管埋設・その他( )												
	検知器回路	耐熱電線・電線管露出・電線管埋設・その他( )												
	警報装置回路	耐熱電線・電線管露出・電線管埋設・その他( )												
	その他回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他( )												
工事者区分	電源及び配線				機器取付									
製造者名	受信機製造会社					型式番号								
	中継器製造会社					型式番号								
	検知器製造会社													
その他														

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

## 別記様式第8

## 漏電火災警報器概要表

(棟別 棟)

防 火 対 象 物 の 概 要	構 造	階 数	建築面積 $m^2$	用 途		
	耐 火 ・ 準 耐 火 防 火 ・ そ の 他 ( )	地上 階 地下 階				
	延べ面積 $m^2$	最大負荷電流の合計 A				
外 壁	壁	床	天 井			
間 柱 下 地 鉄 網	間 柱 下 地 鉄 網	根 太 下 地 鉄 網	天 井 野 縁 鉄 網			
入 り ・ な し	入 り ・ な し	入 り ・ な し	入 り ・ な し			
機 器 等 の 概 要	受 信 機	製 造 会 社 名	型 式	消防庁検定型式番号	級 別	
					級	
	種 別		屋 内 型 互 換 性 型	屋 外 型 非 互 換 性 型		
	設 置 位 置					
	遮 断 機 構		有 無			
	設 地 工 事		有 無			
検出漏えい電流設定値		mA	電源の定格電圧 V			
音 響 装 置	変 流 器	種 別		屋 内 型	屋 外 型	
		構 造 種 別		貫 通 型	分 割 型	
		設 置 位 置				
		互 換 性 の 有 無		互 換 性 型	非 互 換 性 型	
	警 戒 電 路 の 种 别		屋 内 電 路 第 2 種 接 地 線	屋 外 電 路		
	警戒電路の定格電流		mA 以下	警戒電路の定格電圧 V 以上		
	警戒電路の周波数		ヘルツ	定 格 電 流 A		
	保 護 力 バ ー の 接 地		有 無			
種 別		ベル・サイレン・ブザー ヶ所				
設 置 位 置						
設計、施工業者氏名						
備 考						

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## 別記様式第9

消防機関へ通報する火災報知設備の概要表

火 災 通 報 裝 置	品名・型式				型式番号	
	製造会社名					
	設置場所	階室				
	遠隔起動装置	設置場所	電話機付 (台)	(1)	(2)	(3)
				(4)	(5)	(6)
			電話機なし (台)	(1)	(2)	(3)
				(4)	(5)	(6)
	選択信号送出方式	DP方式(10PPS、20PPS)・PB方式				
	自動火災報知設備連動	有・無				
	常用電源	AC V				
M型発信機	設置場所					
工事者区分	電源工事					
	配線工事					
	機器の取付工事					
	工事担当者(電話工事)	氏名			資格	
その他						

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。  
 3 工事者区分欄には、設備会社名等を記入すること。

## 別記様式第10

## 非常警報設備概要表

(棟別)

棟

防 火 対 象 物 規 模	構 造		階 数	建築面積 m <sup>2</sup>		用途			
	耐 準 そ の 他	火 耐 火 他	地上 階	延べ面積 m <sup>2</sup>		収容人員			
			地下 階			名 ( 世帯)			
起 動 装 置 の 設 置 場 所									
区分 階別	用 途	場 所 ・ 位 置 (床面からの高さ)		設 置 個 数	区分 階別	用 途	場 所 ・ 位 置 (床面からの高さ)	設 置 個 数	
	階			個		階			個
	階			個		階			個
	階			個		階			個
	階			個		階			個
	階			個		階			個
	階			個		階			個
非常警報設備の種類		一 体 型 ・ 複 合 装 置 型		鳴 動 区 分		一 斉・区 分 ( )			
電 源	非常電源専用受電設備				AC	V			
	蓄電池	種 別			容 量	充電方式		充電電流	
別置・内蔵 アルカリ 鉛			AH H	トリクル 浮動		mA			
配 線	施工方法		使 用 電 線				太 さ		
	非常電源						mm		
	常用電源回路						mm		
	警報回路 操作回路						mm		
	表示灯回路						mm		
設計、施工業者氏名									
備考									

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## 別記様式第11

## 非常警報設備(放送)概要表

(棟別)

棟)

防 火 対 象 物 規 模	構 造	階 数	建築面積 <small>m<sup>2</sup></small>		用途		
	耐 火 準 耐 火 そ の 他	地上 階 地下 階	延べ面積 <small>m<sup>2</sup></small>		収容人員 名(世帯)		
使用状況	専有設備 共用設備( )						
増幅器	型式	方式	電源	消費電力	出力		
		トランジスター 真空管	AC100V DC24V	AC時 VA DC時 W	定格 W 最大 W		
操作部	放送区分	一斉・階別等選択	回線数	遠隔操作器	無 有( )		
防災センター	設置場所		区画構造	内装	床面積 <small>m<sup>2</sup></small>		
	開口部	特定防火設備 防火設備	<small>m<sup>2</sup></small> <small>m<sup>2</sup></small>	ヶ所 ヶ所	常時閉鎖・煙連動 常時閉鎖・煙連動		
起動装置	押ボタン・非常電話・インターホン				個 感知器, 発信機		
スピーカー	配線方式	型名	型式	定格入力	施工方法		
	2線式		L級 M級 S級	W個 W個 W個	壁掛 埋込 その他		
	3線式		個 個 個	W個 W個 W個	個 個 個		
電源	常用電源	AC—V 専用・兼用( )					
	非常電源	種別	容量	電圧	充電方式		
		ニッケル カドミウム 鉛	時間率 AH	DC V	トリクル 浮動 その他 mA		
配線		施工方法		使用電線	太さ		
	電源回路				mm		
	警報回路				mm		
設計、施工業者氏名							
備考							

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

## 別記様式第12

総合操作盤の概要表

品名・型式				
音響装置		<input type="checkbox"/> ベル・ <input type="checkbox"/> ブザー・ <input type="checkbox"/> 音声警報・その他( )		
表示方法		<input type="checkbox"/> CRT・ <input type="checkbox"/> グラフィックパネル・ <input type="checkbox"/> 窓・その他( )		
製造会社名				
監視場所(副監視)(遠隔監視)		階室		
電源	常用電源	AC V		
	非常電源	<input type="checkbox"/> 非常電源専用受電設備・ <input type="checkbox"/> 非常電源(自家発電設備)・ <input type="checkbox"/> 蓄電池設備 DC V AH		
消防用設備等	<input type="checkbox"/> 屋内消火栓設備		<input type="checkbox"/> スプリンクラー設備	<input type="checkbox"/> 水噴霧消火設備
	<input type="checkbox"/> 泡消火設備		<input type="checkbox"/> 不活性ガス消火設備	<input type="checkbox"/> ハロゲン化物消火設備
	<input type="checkbox"/> 粉末消火設備		<input type="checkbox"/> 屋外消火栓設備	<input type="checkbox"/> 自動火災報知設備
	<input type="checkbox"/> ガス漏れ火災警報設備		<input type="checkbox"/> 非常警報設備(放送設備に限る。)	<input type="checkbox"/> 誘導灯
	<input type="checkbox"/> 排煙設備		<input type="checkbox"/> 連結散水設備	<input type="checkbox"/> 連結送水管
	<input type="checkbox"/> 非常コンセント設備		<input type="checkbox"/> 無線通信補助設備	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
避難設備・建築設備等	<input type="checkbox"/> 排煙設備		<input type="checkbox"/> 非常用の照明設備	<input type="checkbox"/> 機械換気
	<input type="checkbox"/> 空気調和		<input type="checkbox"/> 非常用エレベーター	<input type="checkbox"/> 防火区画(構成機器設備)
	<input type="checkbox"/> 防煙区画(構成機器設備)		<input type="checkbox"/> 非常錠設備	<input type="checkbox"/> ITV設備
	<input type="checkbox"/> ガス緊急遮断弁		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
工事者区分	電源工事			
	配線工事			
	配線工事			
	機器の取付工事			
	機器の取付工事			
	機器の取付工事			
その他				

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項の□印内をチェックすること。

3 工事者区分欄には、設備会社名等を記入すること。

## 別記様式第13

避難器具の概要表

防火対象物の概要										
名称				所在地						
用途				階数(階層)	地上	階	地下	階	塔屋	階
主要構造部	耐火構造・準耐火構造・その他( )						延べ面積	m <sup>2</sup>		
避難器具の概要										
階別	床面積	用途	収容人員	無窓該当	階段の数	減免数	設置数	避難器具の種別(個数)		
								は( )・袋( )・緩( )		
								は( )・袋( )・緩( )		
								は( )・袋( )・緩( )		
								は( )・袋( )・緩( )		
								は( )・袋( )・緩( )		
								は( )・袋( )・緩( )		
								は( )・袋( )・緩( )		
								は( )・袋( )・緩( )		
								は( )・袋( )・緩( )		
避難器具の種別										
型式番号	第 ~ 号			第 ~ 号			第 ~ 号		第 ~ 号	
設置場所の状況 (用途、構造等)										
開口部の大きさ 縦 × 横(cm)	×			×			×		×	
腰高(cm)										
操作面積(m <sup>2</sup> )										
固定位置										
固定方法										
固定部材にかかる 設計荷重(kN)										
固定部材の許容 応力(kN)										
その他										

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 避難器具の種別(個数)欄は、「は」は金属製避難はしご、「袋」は救助袋、「緩」は緩降機を表し、避難器具の種別の後の( )内にそれぞれの種別ごとの設置個数を記載すること。

## 別記様式第14

## 誘導灯概要表

(棟別 棟)

防 火 対 象 物 規 模	構 造		階 数		建築面積 m <sup>2</sup>				用途			
	耐 火 準 耐 火 そ の 他	地上 階	地下 階	延べ面積 m <sup>2</sup>				無窓階の有無				
								有(階)・無(階)				
種別	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階
	用途											
避難口 誘導灯	A 級											
	B 級	BH 形										
		BL 形										
	C 級											
通路 誘導灯	A 級											
	B 級	BH 形										
		BL 形										
	C 級											
階段通路誘導灯												
客席誘導灯												
点灯方式	<input type="checkbox"/> 常時点灯 <input type="checkbox"/> 消灯方式											
消灯条件	<input type="checkbox"/> 自動火災報知設備連動 <input type="checkbox"/> 照明器具連動 <input type="checkbox"/> 旋錠連動											
機能	<input type="checkbox"/> 点滅・誘導音機能 ( )											
	<input type="checkbox"/> 点滅機能のみ ( )											
	<input type="checkbox"/> 誘導音機能のみ ( )											
電源	常用電源	AC V 専用・兼用 ( )										
	非常電源	<input type="checkbox"/> 蓄電池(内蔵型・別置型) <input type="checkbox"/> 自家発電設備 <input type="checkbox"/> 燃料電池設備										
配線	常回 用電 源路	施工方法		使用電線								太さ
	非常回 用電 源路											mm mm <sup>2</sup>
設計、施工業者氏名												
備考												

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## 別記様式第15

## 消防用 水概要表

防 火 対 象 物 規 模	構 造		階 数		建築面積 m <sup>2</sup>	敷地面積 m <sup>2</sup>	
	耐 火	準 耐 火	地上 階	地下 階			
	そ の 他				延べ面積 m <sup>2</sup>	棟数	
概要	棟別	1	2	3	4		
	構 造						
	建 築 物 の 高 さ	m	m	m	m		
	1. 2階の床面積の合計	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		
	延べ面積(地階は除く)	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		
	延焼のおそれのある部分に該当する棟						
採水口の配管等	採水口の設置位置						
	車両進入状況	採水口まで進入可能な位置 m					
	採水口前面空地	m × m					
	採水口の型式	1. 吸管投入型	2. 吸管結合型				
	吸管投入口の大きさ及び数	直径 m	ヶ所				
	吸管結合金具の寸法数	町野式 口径 mm	ヶ所				
水源	配管の材質、寸法	JIS 口径 mm					
	種類	1. 地下式 2. 半地下式 3. 据置式 4. その他 ( )					
	貯水槽	m <sup>3</sup>	専用・兼用 ( )				
実揚程	有効水量	m <sup>3</sup>	ヶ所				
	フート弁から採水口までの配管口径等	mm	長さ m				
	配管の摩擦損失水頭		単位				
加圧ポンプ	落差(水槽の下端から採水口まで垂直距離)					単位 m	
	起動装置	電圧 V	使用配線	操作方式	位置	地盤面からの高さ m	
	起動表示灯	電圧 V	使用配線		灯の内径		
	別添加圧送水装置概要表参照						
設計、施工業者氏名							
備考							

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## 加圧送水装置概要表

加圧送水装置を用いる設備		消防用水		連結散水設備		連結送水管		
加圧送水装置の種類								
加圧送水装置	位 置				認定番号			
	ポンプ	型式 (種別)			原動機	型式		
		口 径	mm			電 流	A	
		揚 程	m			電 壓	V	
吐 出 量	l/min		出 力	Kw				
項 目		型 式 等		寸 法 容 量 等				
附属設備	呼 水 機	材質		長さ	幅	高さ	(cm)	
		減水警報装置		方式				
		警報移報場所						
	フレキシブル管	公称水圧試験圧力		MPa	内径	mm	長さ	mm
	性能試験用配管			方式	内径	mm		
	補給水管			方式	内径	mm		
	呼 水 管				内径	mm		
オーバーフロー管				内径	mm			
逃 し 管				内径	mm			
水源	設置場所			種 別	地下式・据置式			
	有効水量	m <sup>3</sup>			その他( )			
	補給方法	式		兼用設備	無・有( )			
	減水警報装置	方式		警報設置場所				
非常電源	非常電源の種別	専用受電設備(高圧・低压)・自家発電設備・蓄電池設備・燃料電池設備						
	非常電源の型式等	認定番号	非常電源容量			設置場所		
			KVA(AH)					
設計、施工業者氏名								
備考								

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

## 別記様式第17

## 連結散水設備概要表

(棟別)

棟)

防 火 対 象 物 概 要	構 造		階 数		建築面積 m <sup>2</sup>		用途									
	耐 火 準 そ の 他	耐 火 火 地 下	上 地 下	階 階	延べ面積 m <sup>2</sup>											
設 置 状 況	階別		地下1階		地下2階		地下3階									
	床 面 積		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>									
	送 水 区 域 数															
	1送水区域内で2以上防火区画		有・無		有・無		有・無									
ヘ ッ ド を 省 略	散 水 ヘ ッ ド 個 数		個		個		個									
	階	用 途	床面積	防火戸の種別・開口部面積			内装材料									
			m <sup>2</sup>	ヶ所	m <sup>2</sup>											
			m <sup>2</sup>	ヶ所	m <sup>2</sup>											
ヘ ッ ド ・ 制 御 弁 等	項 目		仕 様	項 目		仕 様										
	ヘッドの型式		開放型・閉鎖型	ヘッドの間隔		m× m										
	ヘッドの溶解温度		摂氏度	ヘッド水平警戒距離		半径 m										
	起動方式		手動・自動	開放弁の個数		ヶ所										
	起動装置			制御弁の個数		ヶ所										
	自動警報装置		種別	ヶ所 最大警戒面積 m <sup>2</sup>												
	表示装置			排水弁	位置 ヶ所											
配 管 等	最 大 圧 力		MPa													
	配 管		JIS 吸水管 mm 主管 mm 配水管 mm	JIS 水圧試験圧力 MPa												
	管 継 手		JIS フランジ・ねじ込み・溶接 その他( )	JIS 水圧試験圧力 MPa												
	仕 切 弁			JIS 水圧試験圧力 MPa												
	逆 止 弁			JIS 水圧試験圧力 MPa												
	送 水 口		位置 双口型 個, 埋込・スタンド式,	口径 mm, 高さ m												
	加 圧 送 水 装 置		別添加圧送水装置概要表参照													
全 揚 程	ヘッドの設計圧力換算水頭		単位		m											
	配管の摩擦損失水頭		単位		m											
設計、施工業者氏名																
備考																

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## 別記様式第18

## 連結送水管・非常コンセント設備概要表

(棟別 棟)

防 火 対 象 物 規 模		構 造		階 数		建築面積 $m^2$				用途																							
		耐 火 準 耐 火 そ の 他		地上 階	地下 階	延べ面積 $m^2$																											
設 置 状 況	階 数		階	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階																				
	放 水 口	個 数	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個																				
	位 置 床面より	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m																				
格 納 箱	放水口格納箱	材質	板厚 mm	寸法(高さ) (幅) m×				(奥行) m×																									
	放水用具等	材質	板厚 mm	寸法(高さ) (幅) m×				(奥行) m×																									
		ホースの材質 m	本	噴霧切替ノズル 本																													
配 管 ・ ホ ー ス 等	最大圧力	MPa																															
	項目	材質等	口径等			その他の																											
	主管	JIS	口径 mm			JIS 水圧試験圧力 MPa																											
		立主管 ヶ所	湿式 乾式			高架水槽 専用・兼用( )設備																											
	放水口		口径 mm			個数 单口形 個・双口形 個																											
	送水口		口径 mm			設置場所～ スタンド式・埋込式 GLからの高さ																											
		单口形・双口形	ヶ所																														
	管継手	JIS	法兰ジ・ねじ込み・溶接 その他( )			JIS 水圧試験圧力 MPa																											
	仕切弁	JIS				JIS 水圧試験圧力 MPa																											
	逆止弁	JIS				JIS 水圧試験圧力 MPa																											
	表示灯	電圧 V	配線			設置位置																											
		電流 mA	灯の内径 mm																														
加圧送水装置		別添加圧送水装置概要表参照																															
非常 コン セ ント 設備	階別 設置個数	11階	12階	13階	14階	15階	16階	17階	18階	19階	20階																						
		個	個	個	個	個	個	個	個	個	個																						
	電圧・電流	単相交流 V A				回路数		規格	JIS-																								
	保護箱	寸法 m× m				表示 灯	電圧 V		設置位置																								
		材質 板厚 mm					電流 mA		灯の内径 mm																								
	配線及び 施工方法																																
	非常電源		専用受電設備(高圧・低压)・自家発電設備・蓄電池設備・燃料電池設備																														
	設計、施工業者氏名																																
	備考																																

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

## 別記様式第19

## 無線通信補助設備概要表

防火対象物規模	用途	階数階		延べ面積	m <sup>2</sup>
使用区分	専用・共用(警察用・防災管理用・その他( ))				
設備方式	漏洩同軸ケーブル方法・ 及び空中線方式	漏洩同軸ケーブル 及び空中線方式		・空中線方式	
使用周波数帯域	MHz				
無線機接続端子	設置場所				設置個数個
	許容入力(設計値)	w(連続)	保護箱(cm)	( ) × ( ) × ( )	
増幅器	設置の有無	型名	利得	設置場所	
			dB		
混合分配器	型名	入力端子数	挿入損失	設置場所	
			dB		
混合器	型名	入力端子数	挿入損失	設置場所	
			dB		
分配器	型名	設置個数	挿入損失	設置場所	
			dB		
分波器	型名	設置個数	挿入損失	設置場所	
			dB		
空中線	型名	設置個数	利得	電圧定在波比	
			dB	( )MHzにて( )	
漏洩同軸ケーブル	型名	結合損失	伝送損失	使用長	耐熱措置方法
		dB	dB/km	m	
同軸ケーブル	型名	伝送損失	使用長	耐熱措置方法	
		dB/km	m		
製造者名	漏洩同軸ケーブル				
	空中線				
	分配器等				
	増幅器				
設計・施工業者 氏名	TEL				
備考					

この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

## 別記様式第20

## 排煙設備概要表

(棟別 棟)

防 火 対 象 物 規 模	構造階数			建築面積 m <sup>2</sup>	用途 収容人員 名(世帯)		
	耐 通 その 他	火 耐 火 の 他	地上 階 地下 階				
項目							
排 煙 機	階室						
	機械室の構造	壁	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他( )		
		天井 開口部	<input type="checkbox"/> 耐火 <input type="checkbox"/> 特定防火設備	<input type="checkbox"/> 不燃 <input type="checkbox"/> 防火設備	<input type="checkbox"/> その他( )		
排出量	m <sup>3</sup> /min						
給 氣 機	階室						
	機械室の構造	壁	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他( )		
		天井 開口部	<input type="checkbox"/> 耐火 <input type="checkbox"/> 特定防火設備	<input type="checkbox"/> 不燃 <input type="checkbox"/> 防火設備	<input type="checkbox"/> その他( )		
給気量	m <sup>3</sup> /min						
起動装置	自動	<input type="checkbox"/> 自動火災報知設備感知器連動				<input type="checkbox"/> その他( )	
	手動	<input type="checkbox"/> 手動				<input type="checkbox"/> 遠隔操作	
排 煙 口 等	大きさ	m×m					
	設置位置	<input type="checkbox"/> 天井面		<input type="checkbox"/> 壁面	<input type="checkbox"/> その他( )		
	防煙区画の構造等	防煙区画面積(最大)		m <sup>2</sup>			
風道口	防煙区画の構造	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他( )			
	区画ダンパー	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	( )			
排煙出口	<input type="checkbox"/> 屋上	<input type="checkbox"/> その他( )					
給 氣 口	給気方法	<input type="checkbox"/> 自然流入	<input type="checkbox"/> 給気機	<input type="checkbox"/> その他( )			
	風道構造	<input type="checkbox"/> 耐火	<input type="checkbox"/> 不燃	<input type="checkbox"/> その他( )			
電 源	常用電源	AC V					
	非常電源	<input type="checkbox"/> 非常電源専用受電設備	<input type="checkbox"/> 自家発電設備	<input type="checkbox"/> 蓄電池設備	<input type="checkbox"/> 燃料電池設備		
設計、施工業者氏名							
備考							

この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## 別記様式第21

パッケージ型消火設備の概要表

種 別	I型×( )台・II型×( )台											
認 定 番 号	号	型式記号										
消火薬剤貯蔵容器等	加圧・蓄圧(MPa)	材質			内容積	L×本						
消火薬剤	種 別		型式番号									
	貯 藏 量	(1台当たり)	L×本=	L								
加 圧 用 ガ ス	ガスの種別	窒素・二酸化炭素										
	充 填 量	(1台当たり) m <sup>3</sup> ・L・kg × 本	充填圧力		MPa							
ホース等	材 質				ノズル切替有無	有・無						
	寸 法	長さ m (I型・II型)										
	ホース収納方式	リール収納方式・ホース架収納方式										
設 置 場 所	設 置 階											
	台 数											
電 源	常用電源回路	単相・三相 AC V 電灯回路・動力回路										
		DC V AH	充電方式：トリクル・浮動 使用別：専用・共同									
	非常電源回路	種別 ( ) DC V AH	充電方式：トリクル・浮動 使用別：専用・共同									
配 線	表 示 灯 回 路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )										
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他( )										
放 射 能	放 射 率	L/min										
	放 射 距 離	m										
	全量放射時間	秒										
備 考												

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。

## 別記様式第22

パッケージ型自動消火設備の概要表

認定番号・設置台数		認定型式番号		号×台	型式記号							
消火薬剤貯蔵容器等		加圧・蓄圧 ( MPa)		材質			内容積 L×本					
消火薬剤		種別				型式番号						
		薬剤量	容器別数量	L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数	本 本 本 本 本 本	L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 L×容器本数 =総量	本 本 本 本 本 L					
加圧用ガス		ガスの種別	窒素・二酸化炭素									
		充填量	(1台当たり) m <sup>3</sup> ·L·kg×		本	充填圧力	MPa					
本体設置状況		薬剤貯蔵容器等				接地端子	有・無					
感知部	感知器の種別	式	型( )	型式番号:感第 号×種個								
		式	型( )	型式番号:感第 号×種個								
		式	型( )	型式番号:感第 号×種個								
		式	型( )	型式番号:感第 号×種個								
検出方式												
音響装置		音声・サイレン・音声+サイレン・ブザー・その他( )			連動有無	有(無)						
手動起動方式												
放出導管		主管	材質:	呼び方:	分歧管	材質:						
		最大長さ m										
放出口		材質: 放射量: L/min										
補助散水栓		屋内消火栓(1号・2号・易操作1号) × 台		I型 × 台	II型 × 台							
電源	常用電源回路	単相・三相 AC V 電灯回路・動力回路										
		DC V AH	充電方式: トリクル・浮動			使用別: 専用・共同						
	非常電源回路	種別( ) DC V AH	充電方式: トリクル・浮動			使用別: 専用・共同						
配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )										
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他( )										
	警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他( )										
	その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )										
階	階面積	主な用途	同時放射区域	最大同時放射区域面積	放出口数	備考						
階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個							
階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個							
階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個							
階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個							
階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個							
階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個							
階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個							
階	m <sup>2</sup>		区域	m <sup>2</sup>	個							
合計			区域		個							
備考												

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。